



**LANdeVOICE PBSP403**

# 安全上のご注意



ここには、使用者および他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、ご購入頂いた製品を安全にお使い頂くための注意事項が記載されています。内容をご理解のうえ、正しくお使いください。

お客様または第三者が被った下記すべての損害について、当社および販売会社は、一切その責任を負いませんので、予めご承知おきください。




- 本製品の使用・使用誤りによって生じた、本製品に起因するあらゆる故障・誤動作、事故・人身・経済損害等
- 本製品の使用中に停電等の外部要因によって生じた、事故・人身・経済損害等

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。日本国外で使用された場合、当社は一切の責任を負いかねます。当社は本製品に関し、海外の保守サービスおよび、技術サポート等を行っていません。



## 使用している表示と絵記号の意味

 <b>警告</b>	絶対に行ってはいけないことを記載しています。 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定されます。
 <b>注意</b>	この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分しております。

 発火注意	特定の条件において、発煙または発火の可能性があることを示します。	 感電注意	特定の条件において、感電の可能性のあることを示します。
 けが注意	特定の条件において、怪我を負う可能性があることを示します。		









お守り頂く内容の種類を、次の表示で区分しております。

 禁止	この表示は、してはいけない「禁止」内容です。
 強制指示	この表示は、必ず実行して頂く「強制」内容です。


 **警告** 火災・感電・けがを防ぐために


 感電注意

 発火注意

 禁止	<p>電源コードやACアダプタを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを乗せたり、束ねたりしないでください。破損し、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしないでください。たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。また、AC100V～240V以外での使用はしないでください。異なる電圧で使用すると発煙、火災、感電、故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>本製品(付属品含む)の分解や改造、修理は行わないでください。火災や感電の原因となります。また、本製品のシールやカバーを取り外した場合、修理をお断りすることがあります。</p>
 禁止	<p>本製品(付属品含む)に濡れた手で触れないでください。電源が入っているときは感電の恐れがあります。また、電源が入っていても、故障の原因となります。</p>
 強制指示	<p>ACアダプタはコンセントに完全に差し込んでください。差込が不完全のまま使用すると、ショートしたりし、発熱や発煙、火災の原因となります。抜くときは、必ずACアダプタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となります。</p>
 強制指示	<p>ACアダプタを使用する場合は必ず付属品をお使いください。また、本製品に付属のACアダプタがある場合、他の製品には使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。</p>
 強制指示	<p>次の場合は使用を中止してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液体や異物などが内部に入ってしまったとき</li> <li>・ 煙、異臭、異音が出たとき</li> </ul>
 強制指示	<p>取り付け取り外しの際は、必ず電源を抜いてください。感電や故障の原因となります。</p>





 注意


 落雷注意


 禁止	<p>雷が鳴ったら本製品や電源コード、接続されているケーブル類には触れず、他機器の取り付け/取り外し等も行わないでください。落雷による感電の原因となります。</p>
---	--

 感電注意




 発火注意

 禁止	<p>本製品(付属品含む)は精密機器のため、次のような場所で設置、保管、使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湿気や湯気の多いところや漏水のあるところ</li> <li>・ 急激な温度変化のあるところ(結露するようなところ)</li> <li>・ 油煙、ほこりの多いところ</li> <li>・ 火気の周辺又は熱気のこもるところ</li> <li>・ 保温性、保湿性の高いところ</li> <li>・ 漏電のあるところ</li> <li>・ 強い磁界が発生するところ</li> <li>・ 静電気が発生するところ</li> <li>・ 直射日光があたるところ</li> <li>・ 暖房器具の近くなどの高温になるところ</li> <li>・ 振動の激しいところ</li> <li>・ 腐食ガスが発生するところ</li> </ul>
 禁止	<p>他の機器と密着させたり、本製品の上に物を置いたりしないでください。故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>強い衝撃を与えないでください。 本製品は精密機器のため、落としたり強い衝撃を与えたりしてしまうと、故障の原因となります。</p>
 強制指示	<p>本製品(付属品含む)のほこりなどは定期的にとってください。 湿気などで絶縁不良となり火災の原因となります。電源を切ってから、乾いた布で拭いてください。</p>

 けが注意

 強制指示	<p>お子様の手の届く場所へ設置、保管しないでください。                  本製品(付属品含む)の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を設置してください。                  小さなお子様をご利用になる場合は、製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。</p>
---	--

その他

 禁止	<p>シンナーやベンジン等の有機溶剤で本製品(付属品含む)を拭かないでください。                  汚れた場合は乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどい時はきれいな布に中性洗剤を含ませ、かたく絞ってから拭きとってください。                  ただし、コネクタ部分は、よくしぼった場合でもぬれた布では絶対に拭かないでください。</p>
 強制指示	<p>静電気を除去してから触れてください。                  静電気による破損を防ぐため、本製品(付属品含む)に触れる前にドアノブやアルミサッシ等、身近な金属に手を触れて身体の静電気を取り除くようにしてください。人体からの静電気は、本製品(付属品含む)を破損またはデータの消失、破損させる恐れがあります。</p>
 強制指示	<p>本製品(付属品含む)に接続する機器の取扱いは、各メーカーが定める手順(取扱説明書など)に従ってください。</p>

# はじめに

このたびは、LANdeVOICE PBSP403(本製品)をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本製品は、通話による音声のやり取りをネットワーク(IPネットワーク)を介して行う装置です。



本書は、本製品を正しくご利用頂くための手引です。ご使用前に必ず本書をよくお読み頂き、安全に使用でき、かつ本来の性能を十分に発揮できますよう、正しくお取り扱いください。

お読みになったあとは、必要な時にいつでもご覧頂けるように、大切に保管してください。

本製品に関する最新情報(ソフトウェアのバージョンアップ情報など)は、弊社のホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

<https://www.a-2.co.jp/landevoice/>

## 本書の表記について

 注意	操作中に気をつけて頂きたい内容です。必ずお読みください。
 メモ	この表示は、本製品を十分にご活用頂くための補足事項や参考となる情報を説明しています。

- 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成致しておりますが、記載漏れや不審な点がありましたらご一報くださいますようお願い致します。
- LANdeVOICE は「外国為替および外国貿易管理法」に基づいて規制される戦略物資(または役務)には該当しません。
- Windows および Windows 10 は米国 Microsoft 社の商標です。
- LANdeVOICE は株式会社エイツ一の登録商標です。

# 目次

安全上のご注意	2
はじめに	6
目次	7
<b>第 1 章 お使いになる前にお読みください</b>	<b>8</b>
付属品の確認	9
各部の名称と働き	9
LED 表示	11
<b>第 2 章 設置と接続</b>	<b>15</b>
設置する	16
電源を入れる	16
LAN ケーブルを接続する	16
電話機を接続する場合	17
公衆回線へ接続する場合	17
スピーカや放送機器を接続する場合	17
音声入力機器を接続する場合	18
接点入力のある機器を接続する場合	19
接点出力のある機器を接続する場合	19
<b>第 3 章 設定方法</b>	<b>20</b>
設定画面ログイン方法	21
設定画面について	25
設定画面のメニューについて	26
初期化の方法	28
<b>第 4 章 設定ファイル一覧</b>	<b>29</b>
基本設定ファイル (netcnfg.ini)	30
システム設定ファイル (syscnfg.ini)	31
マルチキャスト受信設定ファイル (server.ini)	52
電話番号設定ファイル (phone.ini)	54
アクション設定ファイル (action.ini)	57
<b>第 5 章 マルチキャスト一斉同報受信設定</b>	<b>60</b>
同報元端末の設定	61
放送受信端末の設定	61
<b>第 6 章 使用例</b>	<b>62</b>
発信方法	63
発信先セレクト・ボタンで任意の拠点と通話	65
再発信 (SP 回線)	67
<b>第 7 章 製品仕様</b>	<b>68</b>
<b>付 録</b>	<b>73</b>
付録 1 コーデック (音声圧縮方式) とは	74
付録 2 コーデック別使用帯域	75
付録 3 ファイル送信による設定について	76
付録 4 DHCP 設定の場合について	80
付録 5 修理について	80
付録 6 パラメータ AD_MODE に関する説明	81
付録 7 パソコンのネットワーク設定について	82

---

# 第1章 お使いになる前にお読みください

---

この章では、PBSP403 の各部の名称と働きなどについて説明します。

- 付属品の確認
- 各部の名称と働き
  - 1 上面
  - 2 背面
- LED表示
  - 1 端末状態のLED表示
  - 2 電源 LED表示
  - 3 接続 LED表示
  - 4 PSTN LED表示
  - 5 TEL LED表示
  - 6 SP LED表示
  - 7 ボタンのLED表示



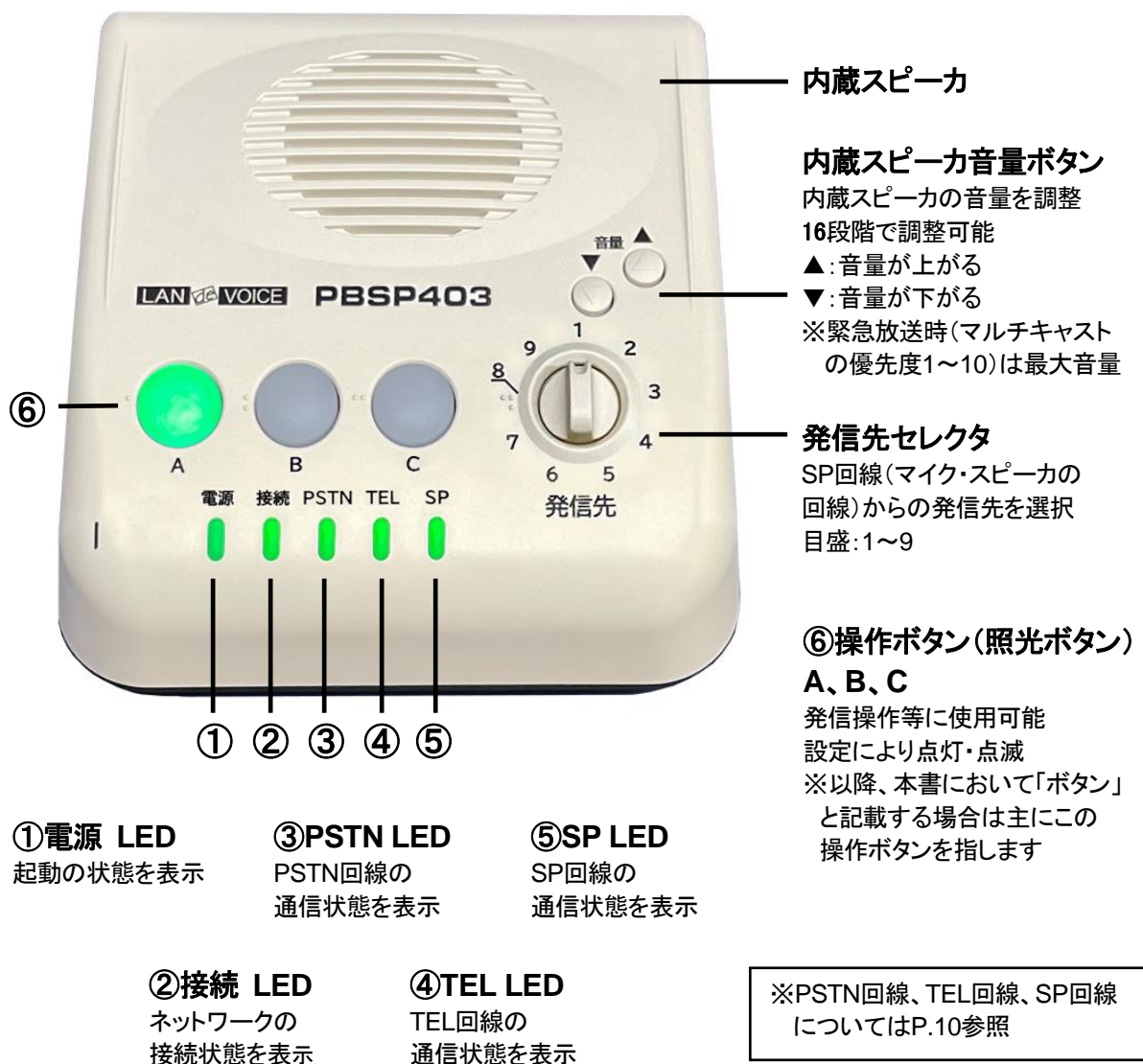
## 付属品の確認

PBSP403 をご使用になる前に、以下のものが同梱されていることをご確認ください。万が一、欠品・不良などがございましたら、お買い上げ頂いた販売店または代理店までご連絡ください。

- LANdeVOICE PBSP403 本体
- ACアダプタ (専用アダプタ 9V 1A)
- LANケーブル (ストレート 3m)
- 接点コネクタ (ユーロブロック) ×4
- 取扱説明書 (本書)
- 保証書 (本書末尾)
- シリアルシール

## 各部の名称と働き

### 1 上面



内蔵スピーカ

内蔵スピーカ音量ボタン

内蔵スピーカの音量を調整

16段階で調整可能

▲: 音量が上がる

▼: 音量が下がる

※緊急放送時(マルチキャストの優先度1~10)は最大音量

発信先セレクト

SP回線(マイク・スピーカの

回線)からの発信先を選択

目盛: 1~9

⑥操作ボタン(照光ボタン)

A、B、C

発信操作等に使用可能

設定により点灯・点滅

※以降、本書において「ボタン」

と記載する場合は主にこの

操作ボタンを指します

①電源 LED

起動の状態を表示

③PSTN LED

PSTN回線の  
通信状態を表示

⑤SP LED

SP回線の  
通信状態を表示

②接続 LED

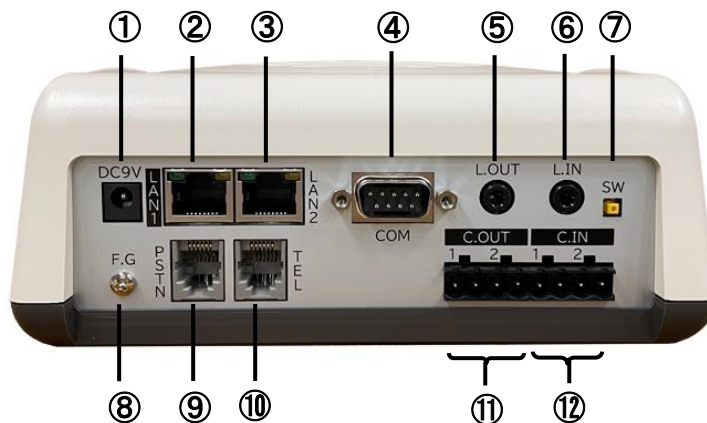
ネットワークの  
接続状態を表示

④TEL LED

TEL回線の  
通信状態を表示

※PSTN回線、TEL回線、SP回線  
についてはP.10参照

## 2 背面



- ① DC 9V …付属の AC アダプタを接続
- ② LAN1  
RJ-45 ネットワークケーブル(10BASE-T/100BASE-TX)を接続  
PoE 受電可能、MDI 結線 ※AC アダプタ接続時は PoE 受電停止
- ③ LAN2  
RJ-45 ネットワークケーブル(10BASE-T/100BASE-TX)を接続  
MDI-X 結線
- ④ COM …シリアルポート ※ユーザは使用しません
- ⑤ L.OUT …LINE 音声出力
- ⑥ L.IN …LINE 入力、マイク入力
- ⑦ SW …初期化用プッシュスイッチ(P.28 参照)
- ⑧ F.G. …接地(アース)端子 ※接続推奨
- ⑨ PSTN  
RJ-11 公衆回線ポート(NTT の公衆網、PBX の単独電話回線と接続)
- ⑩ TEL  
RJ-11 電話ポート(アナログ電話機、FAX、PBX の COT と接続)
- ⑪ C.OUT 1 / 2 …接点出力端子
- ⑫ C.IN 1 / 2 …接点入力端子 ※極性あり: 左から HOT、GND、HOT、GND

PBSP403 の収容回線数は 3 回線です。

1 回線目: TEL回線 = ⑩電話ポート(TEL)

2 回線目: SP回線 = ⑤音声出力(L.OUT)、⑥音声入力(L.IN)、内蔵スピーカ

3 回線目: PSTN回線 = ⑨公衆回線ポート(PSTN)

## LED表示

### 1 端末状態の LED 表示

上面下部の 5 つの LED が同時に動作する時は、以下の端末状態を表します。

LED表示					PBSP403 の状態
電源	接続	PSTN	TEL	SP	
消灯	消灯	消灯	消灯	消灯	電源OFF
最初の 2~3 秒全LED消灯、その後「電源」のみ 2 回緑点灯					電源投入時
緑点灯	緑点灯	消灯	緑点灯	緑点灯	待機状態 (「PSTN」ポート 未接続時)
緑点灯	緑点灯	緑点灯	緑点灯	緑点灯	待機状態 (「PSTN」ポート 接続時)
赤速点滅	赤速点滅	赤速点滅	赤速点滅	赤速点滅	再起動中
紫速点滅	紫速点滅	紫速点滅	紫速点滅	紫速点滅	設定画面左上 「点滅」ボタン 押下時 ※1 (3 秒間点滅)
緑点灯	緑遅点滅	消灯 ※2	緑点灯	緑点灯	呼制御サーバ と接続されて いない
緑点灯	赤速点滅	消灯 ※2	緑点灯	緑点灯	DHCP クライ アント設定時 にIPアドレス が取得できて いない
緑点灯	赤遅点滅	消灯 ※2	緑点灯	緑点灯	LANケーブル が接続されて いない
赤遅点滅	赤遅点滅	赤遅点滅	赤遅点滅	赤遅点滅	異常時 1 (ハードウェア に関する異常 を検出)
橙点灯	橙点灯	橙点灯	橙点灯	橙点灯	異常時 2 (ソフトウェア に関する異常 を検出)

※1 複数台の端末を同時に設定する場合に、設定中の端末を確認可能

※2 「PSTN」ポート未接続時(接続時は緑点灯)



## メモ 異常時 1 および 2 の対処

端末状態のLEDが異常時 1 および 2 の状態を表しているときには、お客様では復旧できません。修理が必要となりますので、お手数ですが、お買い求め頂いた代理店または販売店へご連絡ください。

または、弊社Webサイトよりメールにてお問い合わせください。

<https://www.a-2.co.jp/landevoice/>

なお、機能追加等の理由でファームウェアのバージョンが更新され、予告なく仕様が変更されている場合があります。

弊社Webサイトにて随時情報が更新されていますので、ご確認くださいませよう、お願いいたします。

## 2 電源 LED 表示

LED表示	PBSP403 の状態
消灯	電源OFF
緑点灯	待機状態 (ACアダプタ受電時)
青点灯	待機状態 (PoE受電時)

## 3 接続 LED 表示

LED表示	PBSP403 の状態
緑点灯	待機状態 呼制御サーバに接続中 ※呼制御サーバ設定時 (syscnfg.iniのパラメータ「SERVER」設定時)
赤速点滅	DHCPクライアント設定時に、IPアドレスが取得できていない
赤遅点滅	LANケーブルが接続されていない
緑遅点滅	呼制御サーバと接続されていない (呼制御サーバ設定時) ※呼制御サーバと通信切断後、35分経過すると自動再起動します。
橙点灯	セカンダリ呼制御サーバのみが接続中 ※セカンダリ呼制御サーバ設定時 (syscnfg.iniのパラメータ「SERVER2」設定時)
橙速点滅	・必要なファイルが存在しない ・設定ファイルの内容が間違っている

## 4 PSTN LED 表示

LED表示	PSTN回線の状態
消灯	待機状態（アナログ回線未接続時）
緑点灯	待機状態（アナログ回線接続時）
赤遅点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終話もしくは、通話切断</li> <li>・発信先不明、通話中</li> <li>・発信先未登録</li> </ul>
橙遅点滅	・接続されたアナログ回線オフフック時
橙リング点滅※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IP回線発信時</li> <li>・IP回線着信時</li> </ul>
橙点灯	通話中

## 5 TEL LED 表示

LED表示	TEL回線の状態
緑点灯	待機状態
赤遅点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終話もしくは、通話切断</li> <li>・発信先不明、通話中</li> <li>・発信先未登録</li> </ul>
橙遅点滅	・接続されたアナログ電話機オフフック時
橙リング点滅※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IP回線発信時</li> <li>・IP回線着信時</li> </ul>
橙点灯	通話中

※リング点滅とは・・・呼出信号のパターンで点滅（1秒：速い点滅 / 2秒：消灯）

## 6 SP LED 表示

LED表示	SP回線の状態
緑点灯	待機状態
緑早点滅	録音再生中
赤遅点滅	・終話もしくは、通話切断 ・発信先不明、通話中 ・発信先未登録
橙リング点滅※	・発信時 ・着信時
橙点灯	通話中
青速点滅	マルチキャスト放送受信開始時
青点灯	マルチキャスト放送受信時
青遅点滅	マルチキャスト放送受信終了時

※リング点滅とは・・・呼出信号のパターンで点滅(1秒:速い点滅 / 2秒:消灯)

## 7 操作ボタンの LED 表示

ボタンの LED は SP 回線使用時のみ動作します。  
また、ボタンで発信する時は SP 回線を使用します。

LED表示	SP回線の状態
消灯	・待機状態 ・マルチキャスト放送受信時
早点滅	・発信時 ・着信時
点灯	・通話時 ・録音再生中
遅点滅	・通話終了時 ・録音あり

※点灯・点滅時の色は全て緑(固定)です。

※着信時は、発信設定を行っているボタンが点滅します(P.39 参照)。

※録音ありの状態ではボタンを押すと録音が再生され、再生が終了すると LED は消灯します。

---

## 第2章 設置と接続

---

この章では、PBSP403 の設置と各機器との接続方法について説明します。  
設置する前に、P.2「安全上のご注意」を必ずお読みください。  
手順としては、第3章の設定を先に行った方がスムーズな場合があります。

- 設置する
- 電源を入れる
- LANケーブルを接続する
- 電話機を接続する場合
- 公衆回線へ接続する場合
- スピーカや放送機器を接続する場合
- 音声入力機器を接続する場合
- 接点入力のある機器を接続する場合
- 接点出力のある機器を接続する場合

## 設置する

PBSP403 のゴム脚(滑り止めシール)が付いている面を下にして設置してください。

## 電源を入れる

- 1 PBSP403 には電源スイッチはありません。ACアダプタのコネクタ部分を「DC-9V」に接続し、プラグ部分をコンセントに差し込むと電源が入ります。  
※アースの接続を推奨します。  
※PoEを利用する場合、ACアダプタは不要です。



- 2 PBSP403 の電源を切るには、プラグ部分を電源コンセントから抜きます。

## LANケーブルを接続する

- 1 LANケーブルを「LAN1」または「LAN2」と書かれたポートに接続します。ケーブルはカチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
- 2 LANケーブルの反対側をHUBまたはルータなどのネットワーク機器に接続してください。



### メモ LAN1/2 ポートのリンクランプを確認してください

PBSP403 とネットワーク機器が正しく接続されている場合は、電源投入後にLAN1/2 ポートのリンクランプが点灯します。ご使用になる前にリンクランプが点灯しているかご確認ください。

接続状況	緑ランプ(左)	黄ランプ(右)
100BASE-TX でリンクアップ	点灯	点灯
10BASE-T でリンクアップ	点灯	無灯



## 電話機を接続する場合

- 1 PBSP403 の「TEL」と書かれたポートへ電話機コード(RJ-11 コネクタ、6 極 2 芯のモジュラーケーブル)を接続します。  
ケーブルはカチッと音がするまでしっかりと奥まで差し込んでください。
- 2 電話機コードの反対側を、電話機に接続します。  
受話器を上げてダイヤルトーンが聞こえるか確認してください。

## 公衆回線へ接続する場合

- 1 PBSP403 の「PSTN」と書かれたポートへ電話機コード(RJ-11 コネクタ、6 極 2 芯のモジュラーケーブル)を接続します。  
ケーブルはカチッと音がするまでしっかりと奥まで差し込んでください。
- 2 電話機コードの反対側を、電話線差込口(公衆回線の口)に接続します。  
PSTN LEDが緑点灯していることを確認してください。

## スピーカや放送機器を接続する場合

PBSP403 の「L.OUT」と書かれたポートへアンプ付スピーカや放送機器の 3.5 φ ステレオミニプラグを接続します。

「L.OUT」の仕様についてはP.72 をご覧ください。

## 音声入力機器を接続する場合

### 音響機器、放送機器等を接続する

マイクミキサー、アンプ等を接続できます。

PBSP403 の「L.IN」と書かれたポートへ機器を接続します。

「L.IN」の仕様についてはP.72 をご覧ください。

### マイクを接続する

市販コンデンサマイク、市販ダイナミックマイク、オプション品のページングマイク「LdV-PM660W」(ダイナミックマイク)を接続できます。

※LANdeVOICE2 シリーズの PBSP、PBSP-SIP のオプション品であるページングマイク「LdV-PM660U」は、コネクタの仕様が異なるため接続することができません。

#### ■市販コンデンサマイク、市販ダイナミックマイク

PBSP403 の「L.IN」と書かれたポートへマイクの 3.5φステレオミニプラグを接続します。

#### ■ページングマイク

- 1 ページングマイクのケーブルへ、マイクに同梱されている変換ケーブルを接続します。
- 2 PBSP403 の「L.IN」と書かれたポートへ変換ケーブルの 3.5φステレオミニプラグを接続します。

#### <ページングマイク使用方法>

- ・プレストークボタン(オレンジのボタン)を押すとマイク入力有効、手を放すとマイク入力無効になります。
- ・通話中は、ロックレバーを ON にすることによりプレストークボタンが固定され、マイク入力有効を保持できます。  
※ロックレバーを ON 状態のまま長時間放置するような使用法は避けてください。  
導通が不安定になり、誤動作の原因になる恐れがあります。
- ・プレストークボタンを押して発信/切断する機能は搭載されていません。  
発信/切断は PBSP403 本体の操作ボタンで行ってください。



#### 注意 「L.IN」の使い分け

「L.IN」に何を接続するかによって、システム設定ファイル(syscnfg.ini)のパラメータINPUT\_TYPEの設定を変更する必要があります。必ず正しい設定を行ってください。誤った設定は故障の原因となります。

### 接点入力のある機器を接続する場合

PBSP403 の「C.OUT」と書かれたポートへ、付属のユーロブロックコネクタを使用し、接点入力のある機器を接続してください。  
アンプ、回転ライト等を接続できます。

### 接点出力のある機器を接続する場合

PBSP403 の「C.IN」と書かれたポートへ、付属のユーロブロックコネクタを使用し、接点出力のある機器を接続してください。  
ボタン、感知センサー等を接続できます。

---

## 第3章 設定方法

---

この章では、PBSP403 を設定するための手順等について説明します。

- 設定画面ログイン方法
- 設定画面について
- 設定画面のメニューについて
- 初期化の方法



### メモ 設定方法について

PBSP403 は、お客様のパソコンのWebブラウザより必要な設定をして頂きます。

設定変更の際は本書をよくお読みになり、正しく設定をしてください。

## 設定画面ログイン方法

PBSP403 を設定するための、設定画面のログイン方法について説明します。

### 1 本体に添付のACアダプタとLANケーブルを接続します。

PBSP403 のLANポートには Auto MDI/MDI-X機能 がありません。  
LAN1 ポートに Auto MDI/MDI-X機能 がないパソコンを接続する場合はHUB 経由で接続するか、直接接続したい場合はクロスケーブルで接続してください。  
LAN2 ポートは Auto MDI/MDI-X機能 がないパソコンともストレートケーブルで直接接続できます。

ACアダプタとLANケーブルの接続後、本体のLEDが待機状態になっているか確認をしてください。  
LEDについて(P.11)

### 【出荷時設定】

本体の IP アドレス(IP)	192.168.1.24
ネットマスク	24(255.255.255.0)
デフォルトゲートウェイ(ROUTER)	192.168.1.1
HTTP ポート番号(HTTPD_PORT)	8084
ユーザ名	admin <b>※変更不可</b>
パスワード(P.26、27 参照)	admin

#### 注意 設定時の注意

- ・設定用のパソコンとPBSP403 は、IPネットワーク(IPv4)で接続できる必要があります。パソコンのネットワーク設定をPBSP403 に合わせ、同一セグメント内(推奨)から接続してください。 ※P.82 参照
- ・パスワードはセキュリティーの観点から変更することを推奨いたします。パスワードは他人に知られないようにしてください。
- ・設定時には、本体のLEDが正常動作しているかご確認ください。  
PBSP403 が通話中の場合に設定を変更すると、再起動が発生し通話が切断されますのでご注意ください。

2 パソコンのWebブラウザを起動します。

**【Webブラウザとは】**

Webページを閲覧するためのアプリケーションソフトです。  
弊社で動作確認済みのWebブラウザは、以下の通りです。

- ・Microsoft Edge
- ・Firefox
- ・Google Chrome

※WebブラウザのJavaScript機能を有効にしてご使用ください。

3 起動したら、Webブラウザのアドレスバーに「http://192.168.1.24:8084/」と入力し、[Enter]キーを押します。



http://192.168.1.24:8084/



PBSP403 の IP アドレス

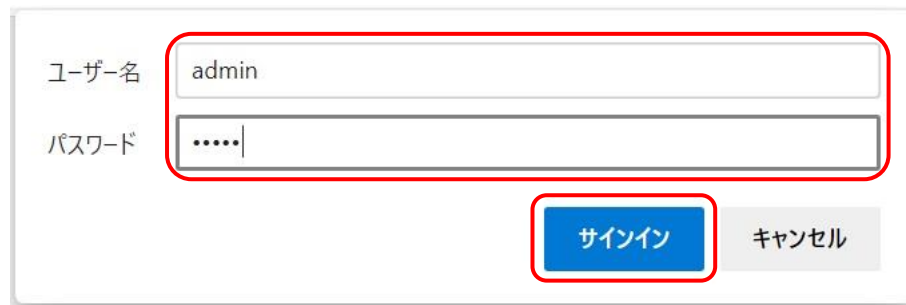


設定画面に接続するための  
HTTP サーバのポート番号

※アドレスとポート番号は、出荷時設定（初期設定値）です。

設定を変更した場合には、設定後のIPアドレスとポート番号に置き換えてください。（IPアドレスはIPv4 アドレスのみとなります）

- 4 ログイン画面になりましたら、ユーザ名とパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。  
※ブラウザによって表記が異なります



The screenshot shows a login form with two input fields: 'ユーザー名' (Username) containing 'admin' and 'パスワード' (Password) containing '.....'. A red box highlights both input fields. Below the fields are two buttons: a blue 'サインイン' (Sign In) button and a grey 'キャンセル' (Cancel) button.

ユーザー名 : admin  
パスワード : admin  
半角小文字で入力してください

 **注意** パスワードについて


ご購入時や初期化時は、パスワードが初期値となります。  
設定画面からパスワードを変更することができますので、セキュリティー上、パスワードを変更して使用することを推奨いたします。  
また、パスワードは他人に知られないようにしてください。

 **メモ** ページが上手く表示できない場合の対処方法

以下の項目をご確認ください

- ・ PBSP403 のLEDが待機状態であるか
- ・ LANケーブルが奥までしっかりと接続されているか  
(ケーブルはカチッと音がするまで差し込んでください)
- ・ LANケーブルが接続されているHUB等のネットワーク機器のランプがアクティブな状態になっているか
- ・ 設定するパソコンのネットワーク設定が適切か
- ・ IPアドレスおよびポート番号の値が適切か
- ・ IPアドレスとポート番号の間が「:」(半角コロン)になっているか
- ・ パソコンのコマンドプロンプトより「ping 192.168.1.24」にて通信が確認できるか

5 下記のような画面が表示されたら、設定画面へのログイン完了です。



SN2010575 | PBSP403 | SN2010575

LANdeVOICEをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
取扱説明書や最新のファームウェアは下記サイトをご確認ください。  
製造元：株式会社エイツー  
Webサイト：<https://www.a-2.co.jp/LANdeVOICE/>

▶ PBSP403 設定画面

▶ 端末情報

端末名	SN2010575	点滅
製品名	PBSP403	
SN	2010575	
MAC	00:10:43:14:29:4F	
リリース	1.0.0	
ch.1	呼制御ポート番号	4445
	待機状態	更新
ch.2	呼制御ポート番号	4446
	待機状態	更新
ch.3	呼制御ポート番号	4447
	待機状態	更新
音声ポート番号 4448 - 4451		

▶ 基本設定ファイル (netcnfg.ini)

変更したい箇所を直接書き換えて画面下部の"設定変更"ボタンを押してください。  
入力は全て半角文字を使用してください。

IPアドレス/ ネットマスク	192.168.1.24 / 24 (255.255.255.0)
デフォルト ゲートウェイ	192.168.1.1
端末名	SN2010575 <small>半角英数字、ピリオド、ハイフンを使用できます。 最大20文字。</small>
HTTPポート番号	8084 (0 - 65535) <small>0または空白を設定すると設定画面が開かなくなります。</small>

キャンセル

設定変更



## 設定画面について

設定画面については、以下のようにになっています。  
 設定は、直接書き換えることができます。  
 「キャンセル」ボタンを押すと、変更内容をキャンセルします。

端末情報

設定画面メニュー

システム設定 (syscnfg.ini) 設定値については第 4 章に記載

システム設定変更 キャンセルボタン

マルチキャスト受信設定変更 キャンセルボタン

電話番号設定 変更キャンセルボタン

アクション設定 変更 キャンセルボタン

基本設定 (netcnfg.ini) 設定値については第 4 章に記載

基本設定 (netcnfg.ini) キャンセルボタン

端末時刻設定

マルチキャスト受信設定 (server.ini)

電話番号設定 (phone.ini)

実際に有効な電話番号設定内容を確認できます

アクション設定 (action.ini)

設定変更ボタン

設定ファイルを書き換えた後は、ページ下部にある「設定変更」ボタンを必ずクリックし、設定を反映させてください。

## 設定画面のメニューについて

設定画面のメニューについて説明します。

①	ログ確認	»
②	バックアップファイル作成	»
③	ファイル送信/ バックアップファイル復元	»
④	PING実行	»
⑤	ログイン用パスワード変更	»
⑥	工場出荷時設定	»
⑦	端末再起動	»

- ① …現在の端末内部ログを取得(表示)します。
  - ・動作ログ(mlog):基本動作を記録したログです。
  - ・通信ログ(cchlog):呼制御動作を記録したログです。
  - ・解析ログ(elog):詳細動作を記録したログです(メーカー調査用)。
- ② …設定ファイルやログをパソコンに保存します。  
 設定完了後や修理を依頼いただく際は、バックアップファイルの作成・保存を推奨します。  
 保存されたファイルは「.tgz形式(tar.gz形式)」で圧縮されています。  
 (解凍ソフト例:Lhaplus)  
 ※バックアップに少し時間がかかるためご注意ください。Webブラウザのダウンロード表示やダウンロードフォルダにて進捗を確認してください。
- ③ …パソコン上で作成した各種設定ファイルを端末に転送できます。  
 ファームウェアのアップデートや、予め作成した設定ファイルなどを転送することができます。  
 万一故障してしまい修理に出す場合なども、予めバックアップファイルを保存しておくことで、修理返却後に修理前の設定に戻すことができます。
- ④ …IPアドレスを入力してpingを実行します。  
 IPv4 アドレスのみです(ホスト名は不可)
- ⑤ …設定画面ログイン時のパスワードを変更します(設定可能値は P.27 参照)。
- ⑥ …PBSP403 の工場出荷時設定が記載されています。  
 ページ下部の「設定変更」ボタンをクリックすると、基本設定ファイル(netcnfg.ini)以外の設定が全て工場出荷時設定に初期化されます。
- ⑦ …端末を再起動します。  
 (通話中の場合は通話が切断されます)

■設定画面ログイン時のパスワードについて  
半角英数字、6 種類の半角記号、合計 5~8 文字で設定可能です。  
※英字の大文字、小文字は区別されます

<設定可能値一覧>

1234567890  
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz  
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ  
! (感嘆符)  
# (番号記号)  
% (パーセント)  
& (アンパサンド)  
@ (単価記号)  
\_ (アンダーバー)

## 初期化の方法

本体背面のSW(プッシュスイッチ)を約 10 秒以上長押しすると全LEDが赤速点滅し、自動的に再起動します。再起動後、以下の項目が出荷時設定となります。  
端末のIPアドレスやパスワードがわからなくなった場合は、この方法でログインすることができます。

- 基本設定ファイル(netcnfg.ini)の全項目
- admin ユーザのパスワード: admin

再起動後は、ブラウザに以下のURLを指定することによって設定画面にアクセスすることができるようになります。

<http://192.168.1.24:8084/>

※端末名の工場出荷時設定は端末のシリアルナンバー(SN)です。

※基本設定ファイル(netcnfg.ini)以外の設定を初期化する場合は、設定画面メニュー「工場出荷時設定」ページ下部の「設定変更」ボタンをクリックしてください。

---

## 第4章 設定ファイル一覧

---

この章では、PBSP403 を設定するための設定ファイルについて説明します。

- 基本設定ファイル (netcnfg.ini)
- システム設定ファイル (syscnfg.ini)
- マルチキャスト受信設定ファイル (server.ini)
- 電話番号設定ファイル (phone.ini)
- アクション設定ファイル (action.ini)

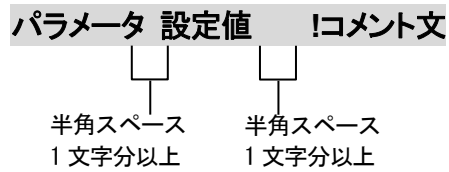
## 基本設定ファイル (netcnfg.ini)

ネットワークに関する基本情報の設定ファイルです。  
 変更したい箇所を直接書き換えて「設定変更」ボタンを押してください。  
 ※全て半角文字で記述してください。

項目名	説明	設定可能値	出荷時設定
IPアドレス/ ネットマスク	<p>PBSP403 のIPアドレスとネットマスクを設定します。</p> <p>ネットワークに合わせて設定してください。                      IP: 数字と数字の間には、「.」(ピリオド)を入力してください。                      DHCPモードで使用する場合には、「255.255.255.255」と入力します。                      (P.80 参照)                      ネットマスク: 該当するビット数を選択してください。</p>	<p>IPアドレス ネットマスク</p> <p>(IPv4 のみ)</p>	<p>IPアドレス: 192.168.1.24</p> <p>ネットマスク: 24 ビット (255.255.255.0)</p>
デフォルト ゲートウェイ	<p>接続されるネットワークのデフォルトゲートウェイIPアドレスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークに合わせて設定してください。</li> <li>数字と数字の間には、「.」(ピリオド)を入力してください。</li> <li>デフォルトゲートウェイが無い場合には、設定不要です。</li> <li>設定を削除する場合は空欄にしてください。</li> </ul> <p>※マルチキャストを受信する場合は記述必須です。デフォルトゲートウェイが無い場合は同一セグメントの任意のIPアドレスを設定してください。</p>	<p>IPアドレス (IPv4 のみ)</p>	<p>192.168.1.1</p>
端末名	<p>端末名を設定します。 (設定画面の表示用として使用されます)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先頭は英字のみ設定可能です。 (数字、ハイフン、ピリオドは設定不可)</li> <li>末尾は英数字のみ設定可能です。 (ハイフン、ピリオドは設定不可)</li> </ul> <p>(記述例 abc-123)</p> <p>無記述時はシリアルナンバーが表示されます。                      例) SN2012345</p>	<p>最大 20 文字 半角英数字</p> <p>“ - ” (ハイフン) “ . ” (ピリオド)</p>	<p>シリアルナンバー (SN)が表示されます</p>
HTTPポート 番号	<p>設定画面に接続するためのHTTPサーバポート番号を設定します。</p> <p>セキュリティ上、設定画面へのアクセスを拒否したい場合は「0」を設定するか、空欄にしてください。</p>	<p>0~65535</p>	<p>8084</p>

## システム設定ファイル (syscnfg.ini)

システムに関する設定ファイルです。  
パラメータの記述方法と編集ルールは以下の通りです。



### <編集ルール>

- 設定値は必ず記述してください。未記述にすると、正常に動作しない場合があります。
- パラメータ名と設定値は必ず 1 行で記述してください。
- パラメータ名と設定値は半角文字で記述してください。
- スペースには半角スペースを用いてください。
- 設定値の後にメモやコメントをつけることができます。  
「!(半角文字)」以降がコメント文になります。コメント文には全角文字および半角文字が使用可能です。  
また、行頭に「!」が付いている行の設定は無効になります。

システム設定ファイル(syscnfg.ini)に設定できるパラメータは下表の通りです。

■各回線共通設定

各回線共通設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
ALIVETIMER	<p>呼制御サーバにステータスを通知する間隔を設定します。</p> <p>-1: 非通知 0: DHCPによるPBSP403 のIPアドレス更新時のみ通知</p> <p>(関連パラメータ: SERVER) (記述例 ALIVETIMER 3)</p>	<p>-1~120</p> <p>単位:分</p>	3
BLOCK	<p>音声パケットの送出間隔を設定します。</p> <p>LANdeVOICE4 シリーズ同士で通信する場合 設定値「30」 ※G.722 で通信する場合は、設定値にかかわらず 20 ミリ秒になります。</p> <p>LANdeVOICE2 および 3 シリーズと通信する場合 G.711 通信時: 設定値「30」、「60」 G.729A通信時: 設定値「30」、「60」、「90」</p> <p>(関連パラメータ: CODER) (記述例 BLOCK 30)</p>	<p>30・60・90</p> <p>単位:ミリ秒</p>	30



各回線共通設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CCH	<p>PBSP403 が呼制御および音声通信で使用する UDPポート番号を設定します。 (関連ファイル: phone.ini)</p> <p>UDPポート番号は、CCHの設定値から合計 6 つの連続した値を使用します。</p> <p><b>【CCHを "4445" に設定した場合】</b></p> <p>&lt;呼制御で使用するポート番号&gt;                      1 回線目 (TEL) 4445                      2 回線目 (SP) 4446(設定値+1)                      3 回線目 (PSTN) 4447(設定値+2)</p> <p>&lt;通話で使用するポート番号&gt;                      4448~4451                      2 回線目のポート番号の次から 4 ポート使用</p> <p>(記述例 CCH 4445)</p> <p>現在設定されているポート番号は、設定画面にて確認できます。</p> <p>&lt;補足&gt;                      ルータのIPマスカレードを使用して同一ネットワーク内で複数のLANdeVOICE製品を設置する場合、CCHパラメータ値の変更が必要となります。使用するポート番号の範囲が、他のLANdeVOICEと重複しないよう設定してください。</p> <p>(設定例)                      LANdeVOICE 1 号機 『CCH 4445』                      LANdeVOICE 2 号機 『CCH 4452』                      LANdeVOICE 3 号機 『CCH 4459』</p>	1~65530	4445

各回線共通設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
DTMF_TOUT	<p>通話中にDTMF信号を受信した際の桁間タイマーおよびDTMF受信の開始番号と終了番号を設定します。</p> <p>【記述方法】 DTMF_TOUT &lt;桁間タイマー&gt; &lt;開始番号&gt; &lt;終了番号&gt;</p> <p>&lt;桁間タイマー&gt;</p> <p>-1: DTMF制御無効</p> <p>0: 桁間タイマーなし DTMF送信側は&lt;開始番号&gt;の後、DTMF番号の入力を開始し、&lt;終了番号&gt;で終了してください。&lt;開始番号&gt;を入力すると入力待ち音「プ、プ、プ」が聞こえるので、action.iniのDTMF受信設定(P.58)のオプションで指定されたDTMF番号を入力し、最後に&lt;終了番号&gt;を入力します。 入力を間違えた場合、再度&lt;開始番号&gt;を入力すると、最初から入力直すことができます。</p> <p>1~10: 指定秒数で桁間タイムアウト DTMFを送信する側では&lt;開始番号&gt;および&lt;終了番号&gt;を使用せずにDTMF番号を入力できます。「プ、プ、プ」は聞こえません。 番号入力中に設定秒数以上の間隔が空いた場合は最初から入力し直してください。 入力を間違えた場合は設定秒数経過後に最初から入力し直してください。</p> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通話中にDTMF開始番号を検知するとDTMF受信モードになり、その間は音声通話ができなくなります。</li> <li>・"#" や "*" を別の用途で使用している場合はDTMF開始番号に設定しないようご注意ください。</li> <li>・終了番号がaction.iniのDTMF番号に含まれないようご注意ください。</li> </ul> <p>(記述例 DTMF_TOUT 0 # #)</p>	<p>桁間タイマー -1~10 単位:秒</p> <p>開始番号、終了番号 0~9 "#" "*" 1桁のみ</p>	-1

各回線共通設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
ECE	<p>エコーキャンセラの有無を設定します。</p> <p>ON: エコーキャンセラを有効にする OFF: エコーキャンセラを無効にする</p> <p>通常はONでご使用ください。</p> <p>(記述例 ECE ON)</p>	ON OFF	ON
EMSGID	<p>アクション設定ファイルで 사용되는「TID(Terminal ID)」の値を設定します。</p> <p>TIDとは、端末固有のIDのことです。</p> <p>(記述例 EMSGID PBSP403)</p>	半角英数字 15 文字まで	PBSP403
SERVER	<p>プライマリ呼制御サーバのIPアドレスを設定します。 呼制御サーバで電話番号を一括管理する場合に設定します。</p> <p>本パラメータに設定されたIPアドレス(呼制御サーバ)へ問い合わせをします。 呼制御サーバが 1 台の場合は、必ず本パラメータの方を設定してください。</p> <p>(記述例 SERVER 192.168.1.20)</p>	IPアドレス (IPv4)	未設定
SERVER2	<p>セカンダリ呼制御サーバのIPアドレスを設定します。 呼制御サーバが 2 台ある場合に設定してください。</p> <p>発信時は、プライマリ呼制御サーバ(SERVER)、セカンダリ呼制御サーバ(SERVER2)の順番で接続し、応答のあった呼制御サーバと通信します。</p> <p>(記述例 SERVER2 192.168.1.21)</p>	IPアドレス (IPv4)	未設定

■TEL回線設定

TEL回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
AUTODIAL1	<p>「TEL」に接続された電話機等をオフフックしたら電話番号を入力しなくても自動的に発信する機能です。設定値は、発信したい相手先の電話番号を指定します。電話番号は、電話番号設定ファイルを参照します。</p> <p>(記述例 AUTODIAL1 100) 電話機をオフフックすると電話番号「100」へ自動発信します。</p>	<p>電話番号 "#" "*" 23 桁まで</p>	未設定
CODER1	<p>TEL回線の音声圧縮方式(コーデック)を設定します。</p> <p>&lt;注意&gt; PBSP403と通信するLANdeVOICEの設定は、異なる設定をする必要がない場合は、基本的に同じ値にしてください。 通信先LANdeVOICEと設定が異なる場合、圧縮率の高いコーデックに自動的に合わせます。 例)発信側:値 1、着信側:値 17 の場合、発信側も 17 になります。 ※KA02、LA01 と通信する場合には、値 1(G.711)のみを設定してください。</p> <p>【設定値】 1 (G.711 64kbps圧縮) 17 (G.729A 8kbps圧縮) ※G.729Aに設定すると、データが小さくなり帯域を節約できますが、低音質になります。</p> <p>(記述例 CODER1 1)</p>	<p>1 17</p>	1
DIDMODE	<p>「TEL」に接続された機器への呼出方法を設定します。</p> <p>0: 通常呼出モード(アナログ電話機接続等) 1: 簡易DIDモード(電話交換機接続等) 2: NTTダイヤルインモード(電話交換機接続等) 3: ナンバーディスプレイモード (ナンバーディスプレイ対応電話機等)</p> <p>※ナンバーディスプレイモードとして使用する場合は、呼制御サーバに接続するか、対向LANdeVOICEがPT402である必要があります。 呼制御サーバ経由の場合は呼制御サーバで登録した電話番号が、対向がPT402の場合は公衆回線やPBX内線等の発信元番号が表示されます。</p> <p>(記述例 DIDMODE 0)</p>	<p>0 1 2 3</p>	0

TEL回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
RVS_BT	<p>着信側の終話時に、転極パルスを送出する設定をします。</p> <p>ON: 転極パルスを送出する OFF: 転極パルスを送出しない</p> <p>通常は、ONでご使用ください。 (記述例 RVS_BT ON)</p>	ON OFF	ON
RVS_CON	<p>発信側の通話時に、極性反転を行う設定をします。</p> <p>ON: 極性反転を行う OFF: 極性反転を行わない</p> <p>通常は、ONでご使用ください。 (記述例 RVS_CON ON)</p>	ON OFF	ON
RVS_PW	<p>着信側の終話時に、送出手転極パルス幅を設定します。</p> <p>(関連パラメータ: RVS_BT ON)に設定している場合に有効になります。</p> <p>(記述例 RVS_PW 750)</p>	400~800 単位:ミリ秒	750
VOL_IN1	<p>「TEL」の入力レベルを設定します。 -32(ミュート) ~ 31(最大) 相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。 31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>(記述例 VOL_IN1 10)</p>	-32~31 単位: dB	0
VOL_OUT1	<p>「TEL」の出力レベルを設定します。 -32(ミュート) ~ 31(最大) 相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。 31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>(記述例 VOL_OUT1 -20)</p>	-32~31 単位: dB	0

■SP回線設定

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
AUTO_DIAL	<p>AUTO_SETUPによる自動発信の発信先電話番号を指定します。</p> <p>電話番号は、電話番号設定ファイルを参照します。 別途AUTO_SETUPの設定が必要です。</p> <p>(記述例 AUTO_DIAL 100) ※起動すると電話番号「100」へ自動発信します。</p> <p>複数行設定することで、再発信時の発信先を変更することができます。 ※全部で5件まで設定可</p> <p>(関連パラメータ: RTY_SETUP) (記述例) AUTO_DIAL 100 AUTO_DIAL 200 AUTO_DIAL 300 ※P.67参照</p>	<p>23桁までの電話番号</p> <p>0~9 "#" "*"</p>	未設定
AUTO_SETUP	<p>PBSP403起動時の自動発信の有無を設定、および有効の場合は切断後に自動で再発信を行うまでの間隔を設定します。</p> <p>別途AUTO_DIALの設定が必要です。</p> <p>※CIN_SETUPの設定を確認してください。 CIN_SETUPの設定値が0(NONE)以外の場合、本機能は有効になりません。 ※本機能有効の場合、PBSP403側から切断することはできません。</p> <p>(記述例 AUTO_SETUP 10)</p>	<p>0~60 0:本機能無効 単位:秒</p>	0

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
BTN1_MODE	<p>ボタンAが押された時の動作を設定します。</p> <p>【設定値】            NONE : 無効(使用不可にするモード)            SPSETUP : ボタンを押して発信し、            スピーカとマイクで通話するモード            ※着信時はSPSETUPを設定したボタン            のうちの 하나가点滅します            (点滅優先順位:A→B→C)            TIMEPLAY : 現在の時刻が再生されます            REPLAY : マルチキャスト放送の録音内容が再生            されます            (どの放送を録音するかは、server.ini            ファイルで指定してください)            SPMUTE : 内蔵スピーカがミュートされます</p> <p>※現在の時刻を再生するモードに設定した場合、時刻            を設定する必要があります。呼制御サーバを使用            しているシステムの場合、呼制御サーバにNTP            サーバの設定をし、呼制御サーバ経由で時刻を同期            させます。</p> <p>(記述例 BTN1_MODE SPSETUP)</p>	NONE SPSETUP TIMEPLAY REPLAY SPMUTE	SPSETUP
BTN2_MODE	<p>ボタンBが押された時の動作を設定します。</p> <p>【設定値】            BTN1_MODEと同様</p> <p>(記述例 BTN2_MODE SPSETUP)</p>	BTN1_MODE と同様	NONE
BTN3_MODE	<p>ボタンCが押された時の動作を設定します。</p> <p>【設定値】            BTN1_MODEと同様</p> <p>(記述例 BTN3_MODE SPSETUP)</p>	BTN1_MODE と同様	TIMEPLAY

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
BT_SET	<p>放送終了時にWAVファイルを再生することができます。</p> <p>本パラメータでは、放送終了(終話)から待機状態になるまでの時間や、WAVファイル(bt.wav)の再生回数を設定します。</p> <p><b>【記述方法】</b> BT_SET &lt;待機状態になるまでの時間&gt; [bt.wav再生回数]</p> <p><b>【設定例】</b></p> <p>工場出荷時 終話するとbt.wavが1回再生され、待機状態になります。 BT_SET 0 1 ※工場出荷時のbt.wavはチャイム音「ピンポンパン(下がる)」です。変更したい場合はWAVファイルを別途用意のうえインストールしてください。</p> <p>例1 終話音を鳴らさずに、即、待機状態にする場合 BT_SET 0</p> <p>例2 内蔵ビジートーンを3秒間再生して待機状態にする場合 BT_SET 3</p> <p><b>【WAVファイルの作成条件】</b> ファイル名: "bt.wav" 形式: 8KHz, <math>\mu</math>-law サイズ: 端末1台に取り込むWAVファイルは合計4MBまで</p>	<p>待機状態になるまでの時間: 0~60 (単位:秒)</p> <p>bt.wav 再生回数: 0~30</p>	<p>0 1 (WAVファイルを1回再生)</p>



SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CODER2	<p>放送(SP)回線の音声圧縮方式(コーデック)を設定します。</p> <p>&lt;注意&gt; PBSP403と通信するLANdeVOICEの設定は、異なる設定をする必要がない場合は、基本的に同じ値にしてください。 通信先LANdeVOICEと設定が異なる場合、圧縮率の高いコーデックに自動的に合わせます。 例)発信側:値 1、着信側:値 17 の場合、発信側も 17 になります。 ※KA02、LA01 と通信する場合には、値 1(G.711)のみを設定してください。</p> <p>【設定値】 1 (G.711 64kbps圧縮 8kHzサンプリング) 17 (G.729A 8kbps圧縮 8kHzサンプリング) 22 (G.722 64kbps圧縮 16kHzサンプリング) ※G.729Aに設定すると、データが小さくなり帯域を節約できますが、低音質になります。 ※G.722 は対応機種同士でのみ通話可能です。</p> <p>(記述例 CODER2 1)</p>	1 17 22	1
CIN1_DIAL	<p>CIN1_SETUPによる接点入力発信の発信先電話番号を指定します。</p> <p>電話番号は、電話番号設定ファイルを参照します。別途CIN1_SETUPの設定が必要です。</p> <p>(記述例 CIN1_DIAL 100) ※接点を入力すると電話番号「100」へ自動発信します。</p> <p>複数行設定することで、再発信時の発信先を変更することができます。 ※全部で 5 件まで設定可</p> <p>(関連パラメータ: RTY_SETUP) (記述例) CIN1_DIAL 100 CIN1_DIAL 200 CIN1_DIAL 300 ※P.67 参照</p>	<p>23 桁までの電話番号</p> <p>0~9 " # " " * "</p>	未設定

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CIN1_SETUP	<p>「C.IN」1 ポート目の接点入力の動作モードを設定します。</p> <p>0: 入力無効(NONE)            1: 入力ONのたびに発信(または応答)、切断を交互に行う(TOGGLE)            2: 入力ON時に発信(または応答)、入力OFF時に切断を行う(MSIG)</p> <p>※本パラメータがNONE以外の場合、AUTO_SETUPは無効になります。</p> <p>※TOGGLE、MSIG設定時の着信時は、CT_SETで設定した時間経過後の自動応答と入力ONによる手動応答を併用可能です。自動応答を無効にしたい場合は、CT_SETに-1を設定してください。</p> <p>※通話相手のオンフック検出時は、本パラメータの設定値にかかわらず自動切断します。</p> <p>(関連パラメータ: AUTO_SETUP、CT_SET)            (記述例 CIN1_SETUP 1)</p>	<p>0            1            2</p>	0
CIN2_DIAL	<p>CIN2_SETUPによる接点入力発信の発信先電話番号を指定します。</p> <p>電話番号は、電話番号設定ファイルを参照します。別途CIN2_SETUPの設定が必要です。</p> <p>(記述例 CIN2_DIAL 100)            ※接点を入力すると電話番号「100」へ自動発信します。</p> <p>複数行設定することで、再発信時の発信先を変更することができます。            ※全部で5件まで設定可</p> <p>(関連パラメータ: RTY_SETUP)            (記述例)            CIN2_DIAL 100            CIN2_DIAL 200            CIN2_DIAL 300            ※P.67 参照</p>	<p>23桁までの電話番号</p> <p>0~9            "#"            "*"</p>	未設定

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CIN2_SETUP	<p>「C.IN」2 ポート目の接点入力の動作モードを設定します。</p> <p>0: 入力無効(NONE)            1: 入力ONのたびに発信(または応答)、切断を交互に行う(TOGGLE)            2: 入力ON時に発信(または応答)、入力OFF時に切断を行う(MSIG)</p> <p>※本パラメータがNONE以外の場合、AUTO_SETUPは無効になります。</p> <p>※TOGGLE、MSIG設定時の着信時は、CT_SETで設定した時間経過後の自動応答と入力ONによる手動応答を併用可能です。自動応答を無効にしたい場合は、CT_SETに-1を設定してください。</p> <p>※通話相手のオンフック検出時は、本パラメータの設定値にかかわらず自動切断します。</p> <p>(関連パラメータ: AUTO_SETUP、CT_SET)            (記述例 CIN2_SETUP 1)</p>	0 1 2	0
CT_DELAY	<p>CT_SETによるWAVファイルまたはリングバックトーンの再生タイミングの遅延設定をします。</p> <p>放送機器に接続する場合等、放送機器の起動時間分遅延させることで放送の頭切れを防ぐことができます。</p> <p>※CT_SETを0に設定している場合は、本パラメータの設定秒数分遅延した後、WAVファイルやリングバックトーンを再生せずに即通話状態になります。</p> <p>(記述例 CT_DELAY 1000)</p>	0~10000  単位:ミリ秒	0

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CT_SET	<p>放送開始時にWAVファイルを再生することができます。</p> <p>本パラメータでは、放送開始(着信)から通話状態になるまでの時間や、WAVファイル(ct.wav)の再生回数を設定します。</p> <p><b>【記述方法】</b> CT_SET &lt;通話状態になるまでの時間&gt; [ct.wav再生回数]</p> <p><b>【設定例】</b></p> <p>■工場出荷時 着信するとct.wavが1回再生され、通話状態になります。 CT_SET 0 1 ※工場出荷時のct.wavはチャイム音「ピンポンパン(上がる)」です。変更したい場合はWAVファイルを別途用意のうえインストールしてください。</p> <p>■例1 着信音(呼出音)を鳴らさずに、即、通話状態にする場合 CT_SET 0</p> <p>■例2 内蔵リングバックトーンを3秒間再生して通話状態にする場合 CT_SET 3</p> <p><b>【WAVファイルの作成条件】</b> ファイル名: "ct.wav" 形式: 8KHz, <math>\mu</math>-law サイズ: 端末1台に取り込むWAVファイルは合計4MBまで</p>	<p>通話状態になるまでの時間: -1~60 (単位:秒)</p> <p>ct.wav 再生回数: -1~30</p>	<p>0 1 (WAVファイルを1回再生)</p>

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
INPUT_TYPE	<p>「L.IN」の音声入力の種別を設定します。</p> <p>接続機器の種別や仕様にしたがって、必ず適切な設定をしてください。誤った設定は故障の原因となりますのでご注意ください。</p> <p>0: LINE入力(マイク給電OFF)            1: ページングマイク(LdV-PM660W)(マイク給電ON)            2: コンデンサマイク(マイク給電OFF)            3: コンデンサマイク(マイク給電ON)            4: ダイナミックマイク(マイク給電OFF)            5: ダイナミックマイク(マイク給電ON)</p> <p>※ページングマイクLdV-PM660Wを接続する場合は、VOL_IN2を-5程度に設定することを推奨します。            ※「マイク給電」とはファンタム電源のことです。            ※一般的にコンデンサマイクは給電が必要なものが多く、ダイナミックマイクは給電が不要なものが多いですが、念のためマイクの仕様を確認してください。</p> <p>(記述例 INPUT_TYPE 1)</p>	0 1 2 3 4 5	0
LOUT_MODE	<p>「L.OUT」の音声出力動作の設定をします。</p> <p>0: 内蔵スピーカと同じ音声を出力            1: 待機中の再生音(音量ボタンの音や録音再生等)は出力しない</p> <p>(記述例 LOUT_MODE 1)</p>	0 1	1
MCH_IP	<p>マルチキャスト斉同報サーバのsyscnfg.iniのMCH_IPと同じ値を設定してください。</p> <p>【参考:サーバの出荷時設定】            MTSV-a: 224.129.65.33            MTSV: 224.129.64.33            MCS401: 224.129.65.33</p> <p>(記述例 MCH_IP 224.129.64.33)</p>	IPアドレス	224.129.65.33  ※MCS401の出荷時設定と同じ値
MCH_PORT	<p>マルチキャスト斉同報サーバのsyscnfg.iniのMCH_PORTと同じ値を設定してください。</p> <p>0: マルチキャスト無効(受信しない)</p> <p>(記述例 MCH_PORT 5000)</p>	0~65535	0
MCS_TYPE	<p>マルチキャスト斉同報サーバの種別を設定します。</p> <p>0: MTSV-a            1: MTSV</p> <p>※マルチキャスト斉同報サーバがMCS401の場合は、MCS401のMCS_TYPEと同じ値を設定します。</p> <p>(記述例 MCS_TYPE 1)</p>	0 1	0

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
RTY_SETUP	<p>発信した際に発信先が話中(ビジー)だった場合の再発信の回数と間隔を設定します。</p> <p>※発信先LANdeVOICEが公衆回線に接続されている場合は本パラメータを出荷時設定から変更しないでください(省令により規制されています)。</p> <p>【記述方法】 RTY_SETUP &lt;回数&gt; &lt;間隔&gt; [オプション]</p> <p>&lt;回数&gt;</p> <p>再発信の回数を設定します。 設定可能値: -1~100</p> <p>0: 再発信しない(rbtc.wavの再生も行わない) -1: AUTO_DIAL、CIN1_DIAL、CIN2_DIALの設定件数分再発信</p> <p>&lt;間隔&gt;</p> <p>再発信の間隔を設定します。 設定可能値: 0~3600 単位: 秒</p> <p>[オプション]</p> <p>&lt;回数&gt;が-1の場合の繰り返しの回数を設定します。 設定可能値: -1~100</p> <p>省略、0、1: 一巡のみ -1: 繰り返し回数は無限</p> <p>※CIN1_SETUP、CIN2_SETUPでMSIGが設定されている場合、再発信中も接点入力をONにし続ける必要があります。</p> <p>※再発信が行われる際はrbtc.wavが再生されますが、出荷時はインストールされていないので無音となります。再生したい場合は別途作成してインストールする必要があります。</p> <p>【WAVファイルの作成条件】 ファイル名: "rbtc.wav" 形式: 8KHz, <math>\mu</math>-law サイズ: 端末 1 台に取り込むWAVファイルは合計 4MBまで</p> <p>(関連パラメータ: AUTO_DIAL、CIN1_DIAL、CIN2_DIAL) (記述例 RTY_SETUP 3 5)</p>	左記参照	00

SP回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
VOL_IN2	<p>「L.IN」の入力レベルを設定します。 -32(ミュート) ~ 31(最大) 相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。 31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>※ページングマイクLdV-PM660Wを接続する場合は、 -5 程度に設定することを推奨します。</p> <p>(記述例 VOL_IN2 10)</p>	-32~31 単位:dB	0
VOL_OUT2	<p>「L.OUT」および内蔵スピーカの出カレベルを設定しま す。 -32(ミュート) ~ 31(最大) 相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。 31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>(記述例 VOL_OUT2 -20)</p>	-32~31 単位:dB	0

■PSTN回線設定

PSTN回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
AD_MODE	<p>IP回線への自動発信設定(AUTODIAL3)の場合、アナログ回線からの着信時に、アナログ回線をオフフックするかどうかを設定します。</p> <p>0: オフフックをしないで発信処理を行う IP回線側の発信先相手が見つからない場合、オンフック(切断)することができない。</p> <p>1: オフフックをして発信処理を行う IP回線側の発信先相手が見つからない場合でも、オンフック(切断)することができる。</p> <p>※公衆回線接続時には、意図しない課金が発生する場合があります。</p> <p>※付録に詳しい説明図を記載しています。</p> <p>(関連パラメータ: AUTODIAL3) (記述例 AD_MODE 0)</p>	0 1	0
AUTODIAL3	<p>PSTN回線がアナログ側から着信したら電話番号を入力しなくても自動的に発信する機能です。 設定値は、発信したい相手先の電話番号を指定します。 電話番号は、電話番号設定ファイルを参照します。</p> <p>(記述例 AUTODIAL3 100) 着信すると電話番号「100」へ自動発信します。</p>	23桁までの電話番号 0~9 "#" "*"	未設定
CODER3	<p>PSTN回線の音声圧縮方式(コーデック)を設定します。</p> <p>&lt;注意&gt; PBSP403と通信するLANdeVOICEの設定は、異なる設定をする必要がない場合は、基本的に同じ値にしてください。 通信先LANdeVOICEと設定が異なる場合、圧縮率の高いコーデックに自動的に合わせます。 例)発信側:値 1、着信側:値 17の場合、発信側も17になります。 ※KA02、LA01と通信する場合には、値 1(G.711)のみを設定してください。</p> <p>【設定値】 1 (G.711 64kbps圧縮) 17 (G.729A 8kbps圧縮) ※G.711に設定すると、データは大きくなりますが、音質が良くなります。</p> <p>(記述例 CODER3 1)</p>	1 17	1



PSTN回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
CTRING	<p>PSTN回線アナログ着信時の呼出信号の判定方法を設定します。</p> <p>ナンバーディスプレイや呼出信号を検出した際、呼出信号のパターンによって着信動作を行います。</p> <p>NTTパターン: IR信号 1秒鳴動、2秒休みの繰り返し それ以外: SIR信号 0.25秒鳴動、0.25秒休みの繰り返し(交換機単独電話回線など)</p> <p>2~5: NTTパターン;オフフックまでの呼出信号の カウント数を指定 ※ナンバーディスプレイ使用不使用によらない 1: NTTパターン以外の呼出信号かつ ナンバーディスプレイ使用 0: NTTパターン以外の呼出信号 -1: NTTパターン以外の呼出信号かつ ナンバーディスプレイ使用 ※設定値 1 で動作しない場合</p> <p>(記述例 CTRING 0)</p>	<p>2~5 1 0 -1</p>	0
DEBTCT	<p>TA等の仕様によって終話時に極性反転しない場合、PBSP403が終話と判定するためのビジートーン検出回数を設定します。</p> <p>接続されている機器から極性反転が出力されない場合、ビジートーン検出回数が設定値を超えると、終話と判定します。</p> <p>※設定値が 0 の場合はビジートーン検出を行いません。そのため、場合によっては終話判定ができなくなり、通話状態をいつまでも保持する持ちきり状態になってしまう可能性があります。その場合はPBSP403を再起動してください。</p> <p>※一斉放送を行っている場合、放送にビジートーンが流れる可能性がありますので、予めご了承ください。</p> <p>※ビジートーンが設定した値より多く聞こえる場合があります。</p> <p>(記述例 DEBTCT 5)</p>	<p>0~30 単位:回</p>	5
DIALSELECT	<p>「PSTN」に接続されたTA等のアナログ回線への送出選択信号種別を指定します。</p> <p>※交換機・TA等の設定によります。</p> <p>0: PB(DTMF)信号 1: DP信号 10pps 2: DP信号 20pps</p> <p>(記述例 DIALSELECT 0)</p>	<p>0 1 2</p>	0

PSTN回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
DTTO	<p>ダイヤルトーンが検出できない場合に番号の自動送を開始するまでの時間を設定します。</p> <p>※ダイヤルトーンが検出できない場合でも、ある程度時間が経ったら番号を自動送するようになっています。</p> <p>※公衆回線に接続する場合は3以上の値を設定してください(省令により定められています)。</p> <p>(記述例 DTTO 3)</p>	<p>0~10</p> <p>単位:秒</p>	3
EN_REDIAL	<p>公衆回線への再発信制限の有無を設定します。</p> <p>公衆回線に接続する場合は1を設定してください。(省令により定められています)</p> <p>有効にすると、1回目の発信から3分以内に3回以上再発信された時は、3回目以降は発信しません。</p> <p>0: 再発信制限を無効にする 1: 再発信制限を有効にする</p> <p>(記述例 EN_REDIAL 0)</p>	<p>0 1</p>	0
RCTTONE3	<p>PSTN回線アナログ着信時に、選択信号を受け付けていることを示す音を設定します。</p> <p>0: 無音 1: ダイヤルトーン 2: セカンドダイヤルトーン(400Hzのツツツツ音)</p> <p>(記述例 RCTTONE3 2)</p>	<p>0 1 2</p>	2
TMDETRVS	<p>公衆回線への発信時に転極が検出できない場合に切断するまでのタイムアウト時間を設定します。</p> <p>公衆回線に接続する場合は120に設定してください。(省令により定められています)</p> <p>0: タイムアウトしない</p> <p>(記述例 TMDETRVS 120)</p>	<p>0~120</p> <p>単位:秒</p>	0

PSTN回線設定			
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
VOL_IN3	<p>「PSTN」の入力レベルを設定します。                      -32(ミュート) ~ 31(最大)                      相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。                      31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>(記述例 VOL_IN1 10)</p>	-32~31 単位: dB	0
VOL_OUT3	<p>「PSTN」の出力レベルを設定します。                      -32(ミュート) ~ 31(最大)                      相対値となります。</p> <p>-32 以下を設定した場合、-32 になります。                      31 以上を設定した場合、31 になります。</p> <p>(記述例 VOL_OUT1 -20)</p>	-32~31 単位: dB	0

## マルチキャスト受信設定ファイル (server.ini)

LANdeVOICE マルチキャスト一斉同報を受信する際の、受信チャンネル情報の設定です。記述方法と編集ルールは以下の通りです。

パラメータ	設定値	!コメント文
	半角スペース 1文字分以上	半角スペース 1文字分以上

### <編集ルール>

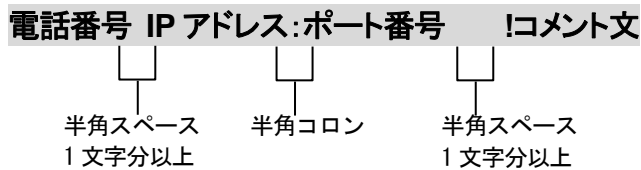
- 設定値は必ず記述してください。未記述にすると、正常に動作しない場合があります。
- パラメータ名と設定値は必ず 1 行で記述してください。
- パラメータ名と設定値は半角文字で記述してください。
- スペースには半角スペースを用いてください。
- 設定値の後にメモやコメントをつけることができます。  
「!(半角文字)」以降がコメント文になります。コメント文には全角文字および半角文字が使用可能です。  
また、行頭に「!」が付いている行の設定は無効になります。

マルチキャスト受信設定ファイル(server.ini)に設定できるパラメータは下表の通りです。

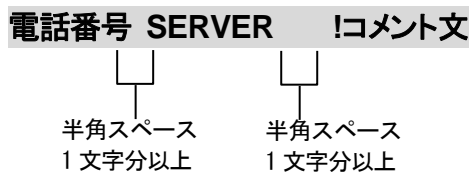
パラメータ名	説明	設定可能値	出荷時設定
MCH	<p>LANdeVOICE マルチキャスト一斉同報を受信する際の、受信チャンネル番号を設定します。</p> <p>LANdeVOICE マルチキャスト一斉同報サーバに設定した MCH 番号をチャンネル番号として記述します。</p> <p>複数のチャンネル番号を設定可能です。複数のチャンネル番号を設定した場合に、同時に複数チャンネルを受信する際は、マルチキャスト一斉同報サーバで設定された優先順位によって受信するチャンネルが決定されます。</p> <p>一行に複数のチャンネル番号を記述することも、複数行に分けて記述することも可能です。</p> <p>(記述例) MCH 1 2 3 MCH 4 MCH 5 MCH 6</p>	1~255	未設定
REC_ADD	<p>放送内容を録音するマルチキャストチャンネルを設定します。</p> <p>MCH で設定した受信チャンネルの中から、放送内容を録音したいチャンネル番号を記述します。</p> <p><b>【記述方法】</b> REC_ADD &lt;チャンネル番号&gt; &lt;間隔&gt; 1(固定値)</p> <p>複数行に分けて記述してください。</p> <p>(関連パラメータ: MCH) (記述例) REC_ADD 1 1 REC_ADD 2 1</p>	チャンネル番号: 1~255	未設定

## 電話番号設定ファイル (phone.ini)

PBSP403 に登録する発信先電話番号帳です。  
記述方法と編集ルールは以下の通りです。



※呼制御サーバ経由で通信する場合



### <編集ルール>

- 発信先の電話番号、IP アドレスとポート番号を記述します。
- 任意の数字および「#」「\*」(最大 23 桁)により、電話番号を設定できます。  
ただし syscnfg.ini のパラメータ DELIM が ON に設定されている場合は、「#」が入力終了文字として扱われ意図した相手に発信できないため注意してください。
- 電話番号と IP アドレス、ポート番号は必ず 1 行で記述してください。
- 電話番号と IP アドレス、ポート番号は半角文字で記述してください。
- スペースには半角スペースを用いてください。
- 電話番号が重複して登録されていた場合、上位に記述されている番号が優先されます。
- 設定値の後にメモやコメントをつけることができます。  
「! (半角文字)」以降がコメント文になります。コメント文には全角文字および半角文字が使用可能です。  
また、行頭に「!」が付いている行の設定は無効になります。
- 発信先セレクトとボタンで発信する場合は、電話番号を次頁の表にしたがって記述してください。
- 呼制御サーバ経由で通信する場合は、IP アドレス・ポート番号部分を「SERVER」と記述します。  
※syscnfg.ini のパラメータ SERVER または SERVER2 に呼制御サーバの IP アドレスを登録しておく必要があります。

<発信先セレクトとボタンの組み合わせによる発信時の電話番号記述方法>

		発信先セレクト								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
ボタン	A	[S11]	[S21]	[S31]	[S41]	[S51]	[S61]	[S71]	[S81]	[S91]
	B	[S12]	[S22]	[S32]	[S42]	[S52]	[S62]	[S72]	[S82]	[S92]
	C	[S13]	[S23]	[S33]	[S43]	[S53]	[S63]	[S73]	[S83]	[S93]

<記述例>



100	192.168.1.10:4445	! 100 番で PB402 の ch.1 へ発信
200	SERVER	! 200 番で呼制御サーバへ発信
[S11]	192.168.1.10:4445	! 発信先セレクト 1 × ボタン A で PB402 の ch.1 へ発信
[S21]	192.168.1.10:4446	! 発信先セレクト 2 × ボタン A で PB402 の ch.2 へ発信
[S93]	<300> SERVER	! 発信先セレクト 9 × ボタン C により、300 番で呼制御サーバへ発信

【解説】

- 1 行目…TEL ポートに接続した電話機で 100 番をダイヤルした時や、syscnfg.ini のパラメータ CIN1\_DIAL、CIN2\_DIAL で 100 番を割り当てたポートに接点を入力した時などに、IP 回線の先の PB402 の ch.1 へ発信します。
- 2 行目…TEL ポートに接続した電話機で 100 番をダイヤルした時や、syscnfg.ini のパラメータ CIN1\_DIAL、CIN2\_DIAL で 100 番を割り当てたポートに接点を入力した時などに、呼制御サーバ経由で IP 回線の先の 200 番の LANdeVOICE へ発信します。
- 3、4 行目…発信先セレクトを 1 に合わせた状態でボタン A を押すと PB402 の ch.1 へ発信し、セレクト 2 でボタン A を押すと同じ PB402 の ch.2 へ発信します。
- 5 行目…発信先セレクトを 9 に合わせた状態でボタン C を押すと、呼制御サーバ経由で IP 回線の先の 300 番の LANdeVOICE へ発信します。

■ 便利な電話番号登録と記述方法

PBSP403 発信先拠点に PBX がある場合など、電話番号設定ファイルに以下のような設定をすると便利です。

<b>① 省略 [ ]</b>	
[ ] で囲まれた番号はダイヤルされた電話番号との一致を比較する際には利用されますが、着信側 LANdeVOICE からダイヤルを送出する時 (PBX や NTT ダイヤルイン など) には省略されます。	
例: [0312]34	発信者が「031234」とダイヤルすると「[ ]」で囲まれた部分が省略されて「34」を着信側の LANdeVOICE から接続されている機器へ送じます。
<b>② 追加 &lt; &gt;</b>	
< > で囲まれた部分は DID 通知時に追加されます。電話番号の一致を検索する際には、追加番号の内容は無視されます。	
例: <0>312345678	発信者が「312345678」とダイヤルすると「< >」で囲まれた部分が追加されて、0312345678 を着信側の LANdeVOICE より送じます。
<b>③ 任意の 1 桁 ?</b>	
? は任意の番号として一致を比較します。	
例: 03123456??	03123456XX とダイヤルされた電話番号は全て該当すると判断します。
例: ???	3 桁の任意の番号が一致します。「???」より上部に「??」の記述があると、先に ?? の 2 桁に該当して 2 桁で発信します。この場合は、3?? などにとすると、3 から始まる 3 桁になります。
<b>④ 任意の桁 /</b>	
/ は以降の入力を全て有効にします。	
例: 03/	桁数の一致、「03」までの入力で該当と判断し、以降 4 秒のタイムアウトまで入力を受け入れます。# (デリミタ) を使うことによりタイムアウトを待たなくても発信させることが可能です。(デリミタはパラメータで ON/OFF 可能です。)
<b>⑤ ポーズ追加 P</b>	
簡易 DID 発信等を利用して、接続先の LANdeVOICE から PBX へ発信する場合にダイヤルポーズを追加することが可能です。P ひとつで約 1 秒のダイヤルポーズを行います。	
例: <0PP>0312345678 (②との併用例)	0312345678 とダイヤルすると、先頭に「0PP」を追加して接続先の LANdeVOICE へ通知します。DID 通知では 0 をダイヤルした後に 2 秒間ポーズし、残りの番号をダイヤルします
<b>⑥ 特定番号発信規制 NOP</b>	
特定の電話番号を発信不可能にします。このとき特定の電話番号は省略記号 [ ] で囲む必要があります。	
例: [100] NOP	100 とダイヤルをしても発信されず、タイムアウト後 BT となります。
<b>⑦ 上記①～⑤の機能は複合させることも可能です。</b>	
[031234]/	031234 で確定し、残りの入力を DID 通知します。
031234[5]<6>7??	03123457XX の下 4 桁を「67XX」に変更して DID 通知します。



## アクション設定ファイル (action.ini)

端末の状態により接点を動作(ON/OFF)させることができます。

### 記述例



### 接点出力部指定

C.OUT1、C.OUT2 の順に記述してください。順番を変えて設定すると、正常に動作しない場合があります。

記述名	説明	出荷時設定
[COUT1]	C.OUT1 接点出力動作を指定します。 接点出力 1 に関する設定を[COUT1]の下に記述してください。 ※必ず記述してください。	[COUT1]
[COUT2]	C.OUT2 接点出力動作を指定します。 接点出力 2 に関する設定を[COUT2]の下に記述してください。 ※必ず記述してください。	[COUT2]

### 動作モード説明

動作モード	説明
ON	接点をON(ショート)します。
OFF	接点をOFF(解放)します。
SB	スローブリンク。ゆっくりしたON/OFF。 1 秒周期でON、OFFを繰り返します。
FB	ファーストブリンク。速いON/OFF。 0.1 秒周期でON、OFFを繰り返します。
OS [パルス幅]	ワンショット。接点をn mSec ON(ショート)します。 パルス幅の単位はミリ秒 100 ミリ秒から 60000 ミリ秒(1 分)まで設定可能 デフォルト値は 100ms

## 動作モード設定およびイベントメッセージ

※オプションを指定する場合、TID (syscnfg.iniに設定したEMSGID)を必ず記述してください。

動作モード	イベントメッセージ	接点出力動作
ON OFF SB FB OS	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) STARTUP"	起動完了時
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) SETUP [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_SP2 SETUP PBSP403 100"	IP回線への発信時  オプションに発信先の電話番号を記述すると、その電話番号へ発信開始時にC.OUT1 (C.OUT2)を動作させる事が可能。
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) CONNECTED"	IP回線通話開始時
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) IDLE"	待機状態
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) BUSY [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_SP2 BUSY PBSP403 NETWORK"	IP回線話中(ビジー)時  以下のオプションを指定可能 オプションなし...話中(ビジー)時 USER_BUSY...相手側が通話中 UNALLOC_NUM...該当する番号なし、または受話器をオフフック後放置し、話中状態時 NETWORK...ネットワークエラー等
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) RINGING [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_SP2 RINGING PBSP403 200"	IP回線からの着信時  オプションに発信元の電話番号(呼制御サーバ使用時)もしくはシリアル番号を記述すると、その電話番号(シリアル番号)からの着信時にのみC.OUT1 (C.IN/OUT2)を動作させる事が可能。
	"LDVEVN_PB1 (SP2/PT3) DTMF [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_SP2 DTMF PBSP403 123"	通話中のIP回線からのDTMF信号受信時  オプションに「DTMF番号(0~9)」を記入します。 ※本設定はDTMFを受信する端末に設定します。  DTMF送信側の操作方法等についてはsyscnfg.iniのパラメータDTMF_TOUT (P.34)を参照してください。  ※LANdeVOICE4 シリーズ間でのみ使用可能
	"LDVEVN_SP2 MULTICAST [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_SP2 MULTICAST PBSP403 SETUP"	マルチキャスト放送受信時  以下のオプションを指定可能 SETUP...開始音再生時 RECEIVE...放送再生時 TERM...終了音再生時
	"LDVEVN_NT1 LINKDOWN"	ネットワークリンクダウン時
	"LDVEVN_NT1 LINKUP"	ネットワークリンクアップ時
"LDVEVN_NT1 OFFLINE"	呼制御サーバとの通信が確立できていない状態 ※ONLINEとセットで設定してください	
"LDVEVN_NT1 ONLINE [TID] [オプション]"  (記述例) "LDVEVN_NT1 ONLINE PBSP403 SERVER"	呼制御サーバとの通信確立時 ※OFFLINEとセットで設定してください  オプションに「SERVER、SERVER2」を設定 SERVER...プライマリサーバに接続 SERVER2...セカンダリサーバに接続	

設定例

	動作	記述例
1	SP回線の通話中にC.OUT1 を ON、終話時にOFF。	[COUT1] ON "LDVEVN_SP2 CONNECTED" OFF "LDVEVN_SP2 IDLE"
2	SP回線着信時にC.OUT2 を速い ON/OFF、通話開始したらOFF。	[COUT2] FB "LDVEVN_SP2 RINGING" OFF "LDVEVN_SP2 CONNECTED"
3	シリアル番号 2000001 からSP回線への着信時にC.OUT2 をワンショット(2 秒間ON)する。2 秒経過後、OFF。	[COUT2] OS 2000 "LDVEVN_SP2 RINGING PBSP403 ##2000001"
4	SP回線の通話中にC.OUT1 を ON。終話時にOFF。 相手からのDTMF信号(123)で、C.OUT2 をON。 DTMF信号(456)でC.OUT2 を OFF。	[COUT1] ON "LDVEVN_SP2 CONNECTED" OFF "LDVEVN_SP2 IDLE"  [COUT2] ON "LDVEVN_SP2 DTMF PBSP403 123" OFF "LDVEVN_SP2 DTMF PBSP403 456"
5	SP回線待機中にC.OUT1 をON。	[COUT1] ON "LDVEVN_SP2 IDLE"
6	SP回線発信時にはC.OUT1 を ON、着信時にはC.OUT1 をゆっくりON/OFF、通話終了時には OFF。	[COUT1] ON "LDVEVN_SP2 SETUP" SB "LDVEVN_SP2 RINGING" OFF "LDVEVN_SP2 IDLE"

---

## 第5章 マルチキャスト一斉同報受信設定

---

この章では、マルチキャスト一斉同報サーバを使用したマルチキャスト一斉同報を受信するための設定について説明します。

- 同報元端末の設定
- 放送受信端末の設定

※マルチキャスト一斉同報サーバの設定方法については、マルチキャスト一斉同報サーバの取扱説明書をご覧ください。

## 同報元端末の設定

同報元端末※には、以下のような設定を行います。  
 詳細な設定方法については、各製品の取扱説明書をご参照ください。  
 ※LANdeVOICEの全機種が同報元端末になることができます。

■電話番号設定ファイル(phone.ini)の設定  
 発信先のIPアドレスを以下のように設定します。

例) 999 SERVER ! マルチキャスト一斉同報 緊急放送

## 放送受信端末の設定

放送受信端末には以下のような設定を行います。

パラメータ名	設定内容
システム設定ファイル(syscnfg.ini)	
ALIVETIMER	呼制御サーバを併用する場合、設定値が3になっていなければ3に変更します(P.32 参照)。
MCH_IP	マルチキャスト一斉同報サーバのsyscnfg.iniのMCH_IPと同じ値を設定します(P.45 参照)。
MCH_PORT	マルチキャスト一斉同報サーバのsyscnfg.iniのMCH_PORTと同じ値を設定します(P.45 参照)。
MCS_TYPE	マルチキャスト一斉同報サーバの種別を設定します(P.45 参照)。サーバがMCS401の場合は、MCS401のsyscnfg.iniのMCS_TYPEと同じ値を設定します。
マルチキャスト受信設定ファイル(server.ini)	
MCH	受信する放送チャンネル番号を設定します(P.53 参照)。

※MCS\_TYPE設定が不要な機種もあります。

---

## 第6章 使用例

---

実際に通話を試してみましょう。

- 発信方法
- 発信先セレクト・ボタンによる発信
- 再発信（SP回線）

## 発信方法

PBSP403 では、5 種類の方法で発信が可能です。

	発信方法	手順
1	発信先セクタ・ ボタンによる発信  【SP回線】	<ul style="list-style-type: none"> <li>①システム設定ファイル(syscnfg.ini)にて BTN1(2/3)_MODEをSPSETUPに設定します。 ※P.39 参照</li> <li>②電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。 ※P.54、55 参照</li> <li>③待機状態のPBSP403 で、発信先セクタの目盛を 合わせ、ボタンA(B/C)を押下すると発信します。</li> <li>④“③”のボタンを再度押下すると切断できます。</li> </ul>
2	接点入力による 発信  【SP回線】	<ul style="list-style-type: none"> <li>①システム設定ファイル(syscnfg.ini)にて CIN1(2)_SETUPおよびCIN1(2)_DIALを設定 します。 ※P.42、41 参照</li> <li>②電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</li> <li>③待機状態のPBSP403 に、C.IN1(2)接続機器より接点 を入力すると発信します。</li> <li>④CIN1(2)_SETUPがMSIGの場合、接点を開放すると 切断できます。 ※その他の切断方法についてはsyscnfg.iniの CIN1(2)_SETUPを参照してください。</li> </ul>
3	起動時発信  【SP回線】	<ul style="list-style-type: none"> <li>①システム設定ファイル(syscnfg.ini)にて AUTO_SETUPおよびAUTO_DIALを設定します。 ※P.38 参照 ※AUTODIAL1、AUTODIAL3 とは異なるパラメータの ため、ご注意ください。</li> <li>②電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</li> <li>③PBSP403 に電源を投入し、起動します。</li> <li>④起動後、自動的に発信します。 ※PBSP403 からは切断できません。</li> </ul>
4	電話機による発信  【TEL回線】	<p>【基本発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</li> <li>②受話器を上げて番号をダイヤルすると発信します。</li> </ul> <p>【自動発信(ホットライン)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①システム設定ファイル(syscnfg.ini)にてAUTODIAL1 を設定します。 ※P.36 参照 ※AUTO_DIAL、AUTODIAL3 とは異なるパラメータの ため、ご注意ください。</li> <li>②電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</li> <li>③受話器を上げると指定先へ自動発信します。</li> </ul>

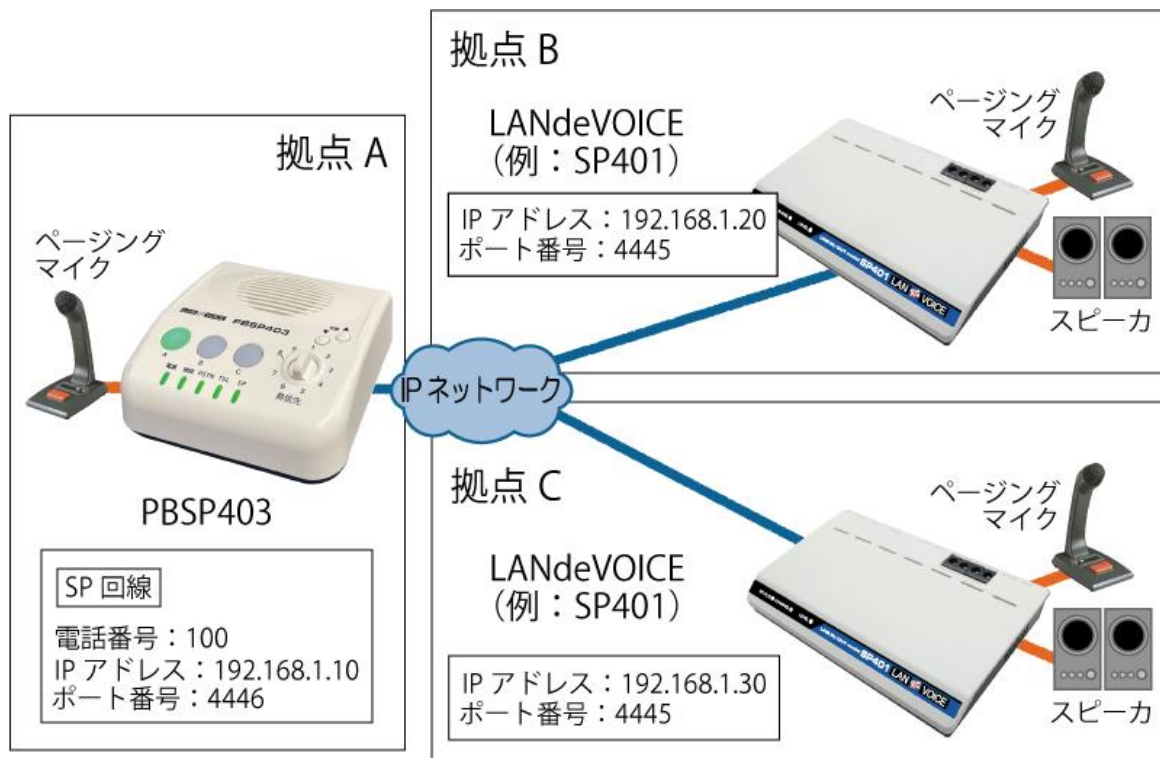
	発信方法	手順
5	<p>公衆回線経由での発信</p> <p>【PSTN回線】</p>	<p>【基本発信】</p> <p>①電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</p> <p>②公衆網の電話機から公衆回線番号をダイヤルするとPBSP403に着信し、トーンが聞こえます。</p> <p>③続けて番号をダイヤルすると他のLANdeVOICEへ発信します。</p> <p>【自動発信(公衆回線延長等)】</p> <p>①システム設定ファイル(syscnfg.ini)にてAUTODIAL3を設定します。</p> <p>※P.48 参照</p> <p>※AUTO_DIAL、AUTODIAL1とは異なるパラメータのため、ご注意ください。</p> <p>②電話番号設定ファイル(phone.ini)を設定します。</p> <p>③公衆網の電話機から公衆回線番号をダイヤルすると、指定したLANdeVOICEへ自動発信します。</p>

※発信先セレクト・ボタンによる発信と接点入力による発信を同時に有効にすることはできませんが、同時に動作させることはできません。また、発信に使用した方法以外で切断することはできません。

※起動時発信とその他の発信方法を同時に有効にすることはできません。システム設定ファイル(syscnfg.ini)にて適切な設定を行ってください。



## 発信先セクタ・ボタンで任意の拠点と通話



予め各機器に以下の設定を行います。

### 【拠点A PBSP403】

- ・基本設定ファイル(netcnfg.ini)  
IP 192.168.1.10
- ・システム設定ファイル(syscnfg.ini)  
CCH 4445  
BTN1\_MODE SPSETUP ! ボタンAを発信切断モードに  
INPUT\_TYPE 1 ! ページングマイク用
- ・電話番号設定ファイル(phone.ini)  
[S11] 192.168.1.20:4445 ! 拠点B SP401  
[S21] 192.168.1.30:4445 ! 拠点C SP401

### 【拠点 B SP401】

- ・netcnfg.ini  
IP 192.168.1.20
- ・syscnfg.ini  
CCH 4445  
INPUT\_TYPE 1 ! ページングマイク用  
TALK\_SETUP 2 ! ページングマイク発信 MSIG モード  
TALK\_DIAL 100
- ・phone.ini  
100 192.168.1.10:4446 ! 拠点 A PBSP403 SP 回線

### 【拠点 C SP401】

- ・netcnfg.ini  
IP 192.168.1.30
- ～以下、拠点 B と同様～

#### 拠点 A から拠点 B、C へ発信する方法

- 1 PBSP403 の発信先セレクトを 1 に合わせてボタンAを押すと、拠点Bへ発信します。  
拠点Aのページングマイク音声は拠点Bのスピーカから聞こえ、拠点Bのページングマイク音声は拠点AのPBSP403 の内蔵スピーカから聞こえます。
- 2 ボタンAをもう一度押すと切断します。
- 3 PBSP403 の発信先セレクトを 2 に合わせてボタンAを押すと、拠点Cへ発信します。  
ボタンAをもう一度押すと切断します。

#### 拠点 B または C から拠点 A へ発信する方法

- 1 拠点BまたはCのページングマイクのプレストークボタンを押す（ロックレバーを上げる）と、拠点AのPBSP403 へ発信します。
- 2 プレストークボタンを放す（ロックレバーを下ろす）と切断します。

## 再発信（SP回線）

発信先が話中の時や見つからない時に、自動で再発信をすることができます。その場合の syscnfg.ini 設定例と動作例を紹介します。

※発信先 LANdeVOICE が公衆回線に接続されている場合は本機能を利用しないでください(省令により規制されています)。

### パターン①

同じ発信先に 2 回再発信したい場合

RTY_SETUP	2	10	! 10 秒間隔で 2 回再発信
CIN1_DIAL	100		! C.IN1 に接点入力で 100 へ発信
CIN1_SETUP	1		! C.IN1 を TOGGLE で使用

#### 【動作例】

1. C.IN1 に接点入力で 100 へ発信 →話中
2. 10 秒後に 100 へ自動再発信 →話中
3. 10 秒後に 100 へ自動再発信 →話中
4. 待機状態へ

### パターン②

異なる発信先に再発信したい場合(一巡)

RTY_SETUP	-1	10	! CIN1_DIAL 設定件数分、10 秒間隔で再発信
CIN1_DIAL	100		! C.IN1 に接点入力で 100 へ発信
CIN1_DIAL	200		! C.IN1 接点入力時の再発信先 200
CIN1_DIAL	300		! C.IN1 接点入力時の再発信先 300
CIN1_SETUP	1		! C.IN1 を TOGGLE で使用

#### 【動作例】

1. C.IN1 に接点入力で 100 へ発信 →話中
2. 10 秒後に 200 へ自動再発信 →話中
3. 10 秒後に 300 へ自動再発信 →話中
4. 待機状態へ

### パターン③

異なる発信先に再発信したい場合(繰り返し)

RTY_SETUP	-1	10	-1	! CIN1_DIAL 設定件数分、10 秒間隔で再発信
CIN1_DIAL	100			! C.IN1 に接点入力で 100 へ発信
CIN1_DIAL	200			! C.IN1 接点入力時の再発信先 200
CIN1_DIAL	300			! C.IN1 接点入力時の再発信先 300
CIN1_SETUP	1			! C.IN1 を TOGGLE で使用

#### 【動作例】

1. C.IN1 に接点入力で 100 へ発信 →話中
2. 10 秒後に 200 へ自動再発信 →話中
3. 10 秒後に 300 へ自動再発信 →話中
4. 10 秒後に 100 へ自動再発信 …以降繰り返し

## 第7章 製品仕様

PBSP403 の製品仕様です。

製品名	LANdeVOICE PBSP403
型番	LdV4-PBSP403
LANポート	<p>2ポート (RJ-45 10BASE-T/100BASE-TX)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IPv4 (DHCPクライアント機能サポート)</li> <li>・ IPv6 非対応</li> </ul> <p>LAN1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MDI (Auto MDI/MDI-X機能なし)</li> <li>・ PoE受電可</li> </ul> <p>LAN2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MDI-X (Auto MDI/MDI-X機能なし)</li> <li>・ PoE受電不可</li> </ul>
電話ポート	<p>1ポート TEL</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FXS</li> <li>・ RJ-11</li> <li>・ 選択信号 : PB信号 DP信号 (10pps, 20pps) 自動切替</li> <li>・ 給電電圧 : 約 48V (端子間開放の場合)、 約 30mA (代表値)</li> <li>・ 呼出信号 : 16Hz 変形矩形波 (負荷のインピーダンスにより、出力電流・電圧ともに変化する。)</li> <li>・ 極性反転機能あり</li> </ul>
公衆回線ポート	<p>1ポート PSTN</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FXO</li> <li>・ RJ-11</li> <li>・ 選択信号 : PB信号 DP信号 (10pps, 20pps) 設定切替 (出荷時設定はPB信号)</li> <li>・ 直流給電最大定格 : 85mA</li> <li>・ 呼出信号認識範囲 : 16Hz~20Hz</li> <li>・ 極性反転機能対応</li> <li>・ 端末認証番号 : AD21-0097001 号</li> </ul>
音声入出力 (SP回線)	<p>L.IN×1ポート L.OUT×1ポート 内蔵スピーカ×1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3.5φミニジャック (3極)</li> <li>・ モノラル音声</li> <li>・ 内蔵スピーカ音量調整 : 16段階 (音量ボタン) ※最大音量になると「ピピッ」と音が鳴る</li> </ul>

接点出力	<p>C.OUT×2ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出力形式：無電圧a接点</li> <li>・極性なし、交流負荷も接続可能 本体内部回路からは絶縁されている</li> <li>・最大定格：DC45V 800mA (AC30V 550mA rms、周波数は100Hz未満の正弦波)</li> <li>・端子形状：ユーロブロック、5.08mm間隔、2極 対応する線材の太さ：0.5～3.5SQ</li> </ul>
接点入力	<p>C.IN×2ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入力形式：無電圧a接点 (短絡でON、解放でOFF) ※外部から電圧を印加しないこと</li> <li>・極性あり (P.10参照)</li> <li>・本体内部回路からは絶縁されていない</li> <li>・端子形状：ユーロブロック、5.08mm間隔、2極 対応する線材の太さ：0.5～3.5SQ</li> </ul>
操作ボタン	3個
発信先セレクタ	1個 (目盛数：9)
状態表示LED	上面：5 (電源、接続、PSTN、TEL、SP)
呼制御プロトコル	LANdeVOICE方式 (独自プロトコル：IPv4+UDP)
音声通信機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧縮方式： G.711 (μ-LAWのみ)、G.729A、G.722 (SP回線のみ)</li> <li>・TEL、PSTN：エコーキャンセラ (G.168 準拠 [64mSec])</li> <li>・SP：アコースティックエコーキャンセラ搭載</li> <li>・無音声圧縮処理サポート</li> <li>・DTMF中継機能サポート</li> </ul>
FAX通信機能	FAXモード専用通信 (T.38)
設定方法	ネットワーク上に接続されたPC等のWebブラウザからの操作 (設定画面)、Webブラウザからのファイル転送
筐体	プラスチック筐体

<p>動作環境温度の目安 (無風状態の周囲 気温)</p>	<p>ACアダプタ受電時：0°C～40°C PoE受電時：0°C～38°C</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <p>注) いずれも本体のみに ついての動作環境温度</p> </div> <p>※内蔵スピーカから最大音量で出力し続けた場合： 0°C～36°C</p>
<p>電源</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ACアダプタ受電</li> <li>・ PoE受電</li> </ul> <p>※ACアダプタ接続時はLANポートからのPoE受電を停止</p>
<p>消費電力</p>	<p>最大：9.0W 代表値：3.5W（待機時）、6.3W（2回線同時通話時）</p>
<p>環境対応</p>	<p>欧州RoHS指令準拠 ※弊社独自の化学分析は行っていませんが、本指令に準拠した部材のみを製品に使用しています。</p>
<p>外形寸法</p>	<p>170(W)×180(D)×75(H) mm（突起物含まず）</p>
<p>質量</p>	<p>本体約 0.65kg</p>
<p>付属品</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ACアダプタ（1.5m）×1</li> <li>  スイッチング電源方式</li> <li>  入力：AC100～240V（50/60Hz）</li> <li>  出力：DC9V、1A</li> <li>  対応環境温度：0°C～50°C</li> <li>・ LANケーブル（ストレート、3m）×1</li> <li>・ 接点コネクタ（ユーロブロック）×4</li> <li>・ 取扱説明書×1</li> <li>・ 保証書（取扱説明書内記載）×1</li> <li>・ シリアルシール×1</li> </ul>
<p>デフォルトIPアドレス</p>	<p>192.168.1.24</p>
<p>保証期間</p>	<p>購入後1年間</p>

接続可能機器	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2線式アナログ電話機</li><li>・ G3FAX機<ul style="list-style-type: none"><li>※LdV4 シリーズ同士の場合、FAXモード専用通信</li><li>※LdV2 シリーズの場合、G.711 のみ使用可能 (みなし音声通信)</li><li>※スーパーG3 (V.34) 非対応</li></ul></li><li>・ 交換機 (PBX) のCOT (局線トランク・アナログ外線トランク)</li><li>・ NTT公衆回線</li><li>・ 交換機 (PBX) の単独電話回線トランク<ul style="list-style-type: none"><li>※PBX経由でFAX通信をする場合はG3FAXに対応、 ただしスーパーG3 (V.34) 非対応</li></ul></li><li>・ アンプ付スピーカ</li><li>・ 放送機器</li><li>・ 音声入力機器</li><li>・ 市販コンデンサマイク</li><li>・ 市販ダイナミックマイク</li><li>・ ページングマイク「LdV-PM660W」</li><li>・ 接点入力のある機器</li><li>・ 接点出力のある機器</li></ul>
オプション品	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ページングマイク「LdV-PM660W」(変換コネクタ付属)</li></ul>

「L.IN」コネクタの仕様

入力端子	3.5φミニジャック(3極)
入力レベル	LINE入力定格:約 0dBm相当
入力方式	3方式切り替え(LINE入力、コンデンサマイク、ダイナミックマイク)、不平衡(非絶縁)
内部回路抜粋	
備考	<p>【入力アンプのゲイン(増幅)やアッテネータ(減衰)】</p> <p>LINE入力: ゲインやアッテネータはない(増幅率 0dB)</p> <p>コンデンサマイク: 増幅率 24dB</p> <p>ダイナミックマイク: 増幅率 43dB</p> <p>※全て代表値です。</p>

「L.OUT」コネクタの仕様

出力端子	3.5φミニジャック(3極)
出力レベル	最大 0dBm
出力方式	LINE出力、不平衡(非絶縁)
出力インピーダンス	600Ω以下
接続機器の入力インピーダンス(推奨)	600Ω以上(1kΩ以上推奨)
内部回路抜粋	
備考	<p>パソコン用の電源付きスピーカユニットでは左右同一(同相信号)の音声出力する</p>



---

# 付 録

---

- 付録 1 コーデック(音声圧縮方式)とは
- 付録 2 コーデック別使用帯域
- 付録 3 ファイル送信による設定について
- 付録 4 DHCP設定の場合について
- 付録 5 修理について
- 付録 6 パラメータAD\_MODEに関する説明
- 付録 7 パソコンのネットワーク設定について

## 付録1 コーデック（音声圧縮方式）とは

電話機から入力される音声をそのまま伝送するためには、一般に 64Kbpsの帯域を必要とします。LANdeVOICEでは、音声を効率よくネットワーク上で伝送するためにデジタル化する際に圧縮処理を行っています。このときに使用される圧縮処理方式のことです。

※発信側と着信側のコーデックの設定は、異なる設定にする必要がない場合、基本的に同じ値にしてください。

### ■変更時の注意事項

圧縮効率を上げることで、音質が低下する場合がありますので、利用するネットワークの環境や音質などを十分に検討されたうえでの変更をお奨めします。

## 付録2 コーデック別使用帯域

### 通話中に使用する帯域について (CODER・BLOCK)

PBSP403 が 1 対 1 で通話する際の使用回線の帯域は、CODER、BLOCK の 2 つのパラメータで理論上決定されます。

#### ■LANdeVOICE4 シリーズ同士で通信する場合

コーデック	BLOCK	帯域(kbps)
<b>G.711</b>	30	<b>79.5</b>
<b>G.729A</b>	30	<b>23.5</b>
<b>G.722</b>	20	<b>87.2</b>

#### ■LANdeVOICE2、3 シリーズと通信する場合

コーデック	BLOCK	帯域(kbps)
<b>G.711</b>	30	<b>77.9</b>
	60	<b>71.7</b>
<b>G.729A</b>	30	<b>21.1</b>
	60	<b>14.9</b>
	90	<b>12.9</b>

#### ■参考情報

帯域はご利用になるネットワーク環境によって変動します。

IPパケットのヘッダ情報が追加され、例えばG.711 使用時は約 100kbpsの使用帯域となります。

## 付録3 ファイル送信による設定について

各種設定ファイルの設定は、設定画面の各設定欄で直接書き換える方法だけでなく、あらかじめ作成しておいた設定ファイルをメニュー「ファイル送信／バックアップファイル復元」(P.26 参照)にてWeb上へ送信(アップロード)する方法でも行うことができます。

この方法は全種類の設定ファイルに適用可能です。

ファイル送信による設定の手順は以下の通りです。

### 1 以下の形式でファイルを作成します。

#### 【ファイル名と拡張子】

基本設定ファイル:「netcnfg.ini」

システム設定ファイル:「syscnfg.ini」

マルチキャスト受信設定ファイル:「server.ini」

電話番号設定ファイル:「phone.ini」

アクション設定ファイル:「action.ini」

#### 【ファイル形式】

テキスト形式(「メモ帳」等のテキストエディタで作成してください)

※作成後に上記ファイル名と拡張子に変更してください。

※ファイル内のパラメータの記述方法については

「第4章 設定ファイル一覧」を参照してください。

### 2 作成したファイルを送信します。

メニュー「ファイル送信／バックアップファイルの復元」にて、作成した各種設定ファイルをそれぞれ参照し、送信ボタンを押します。

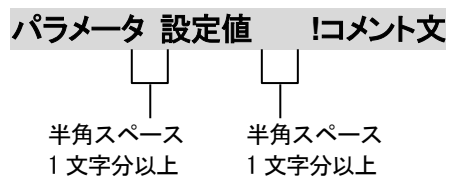
### 3 再起動ボタンを押し、正常に起動するまで待ちます。

※再起動中は絶対に電源を切らないでください。

## ■記述方法と編集ルール

基本設定ファイル (netcnfg.ini) の記述方法と編集ルールは以下の通りです。  
※その他の設定ファイルについては設定画面と同様です。

### <記述方法>



### <編集ルール>

- 設定値は必ず記述してください。未記述にすると、正常に動作しない場合があります。
- パラメータ名と設定値は必ず 1 行で記述してください。
- パラメータ名と設定値は半角文字で記述してください。
- スペースには半角スペースを用いてください。
- 設定値の後にメモやコメントをつけることができます。  
「! (半角文字)」以降がコメント文になります。コメント文には全角文字および半角文字が使用可能です。  
また、行頭に「!」が付いている行の設定は無効になります。

## ■基本設定ファイル(netcnfg.ini)に設定可能なパラメータ

パラメータ名 (設定画面上 の項目名)	説明	設定可能値	出荷時設定
IP  (IPアドレス/ ネットマスク)	<p>PBSP403 のIPアドレスとネットマスクを設定します。</p> <p>ネットワークに合わせて設定してください。 IP: 数字と数字の間には、「.」(ピリオド)を入力してください。 DHCPモードで使用する場合には、「255.255.255.255」と入力します。 (P.80 参照)</p> <p>ネットマスク: 「/」(スラッシュ)の後にネットマスク(ビット数)を記述してください。</p> <p>(記述例 IP 192.168.1.24/24)</p>	<p>IPアドレス ネットマスク</p> <p>(IPv4 のみ)</p>	192.168.1.24/24
ROUTER  (デフォルト ゲートウェイ)	<p>接続されるネットワークのデフォルトゲートウェイIPアドレスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークに合わせて設定してください。</li> <li>・数字と数字の間には、「.」(ピリオド)を入力してください。</li> <li>・デフォルトゲートウェイが無い場合には、設定不要です。</li> <li>・設定を削除する場合は空欄にしてください。</li> </ul> <p>※マルチキャストを受信する場合は記述必須です。デフォルトゲートウェイが無い場合は同一セグメントの任意のIPアドレスを設定してください。</p> <p>(記述例 ROUTER 192.168.1.1)</p>	<p>IPアドレス</p> <p>(IPv4 のみ)</p>	192.168.1.1
TERM_NAME  (端末名)	<p>端末名を設定します。 (設定画面の表示用として使用されます)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先頭は英字のみ設定可能です。 (数字、ハイフン、ピリオドは設定不可)</li> <li>・末尾は英数字のみ設定可能です。 (ハイフン、ピリオドは設定不可)</li> </ul> <p>(記述例 TERM_NAME abc-123)</p> <p>無記述時はシリアルナンバーが表示されます。 例) SN2012345</p>	<p>最大 20 文字 半角英数字 “ - ”(ハイフン) “ . ”(ピリオド)</p>	シリアルナンバー (SN)が表示されます

パラメータ名 (設定画面上 の項目名)	説明	設定可能値	出荷時設定
HTTPD_PORT  (HTTPポート 番号)	<p>設定画面に接続するためのHTTPサーバポート番号を設定します。</p> <p>セキュリティ上、設定画面へのアクセスを拒否したい場合は「0」を設定するか、パラメータ名のみ残し、値を削除してください。</p> <p>(記述例 HTTPD_PORT 8084)</p>	0~65535	8084

## 付録4 DHCP設定の場合について

PBSP403 ではIPアドレスをDHCP設定にすることが可能です。その場合の条件や手順について説明します。

- 1 DHCP運用をするためには端末管理・呼制御サーバのCCS401 が必要です。CCS401 をご購入のうえ、PBSP403 のシステム設定ファイル(syscnfg.ini)のパラメータ「SERVER」(P.35 参照)を設定してください。
- 2 DHCP設定をするためには、PBSP403 の基本設定ファイル(netcnfg.ini)にてIPアドレスを「255.255.255.255」と設定してください(P.30 参照)。
- 3 PBSP403 の設定変更後、全LED(「PSTN」はアナログ回線接続有無による)が緑点灯になっていれば設定完了です。CCS401 の端末管理システムにてPBSP403 の現在のIPアドレスが確認できます。



### 注意 LEDを必ず確認してください

PBSP403 の設定変更後、全LED(PSTNは接続による)が緑点灯になっていない場合、設定がうまく行われていません。一度初期化(P.28 参照)を行い、再度確認のうえ設定してください。

## 付録5 修理について

修理の前に、設定や構成を見直すことで問題が解決する場合がございます。今一度、設定を見直して頂き、解決できない場合にはお買い求め頂いた代理店・販売店へご連絡ください。

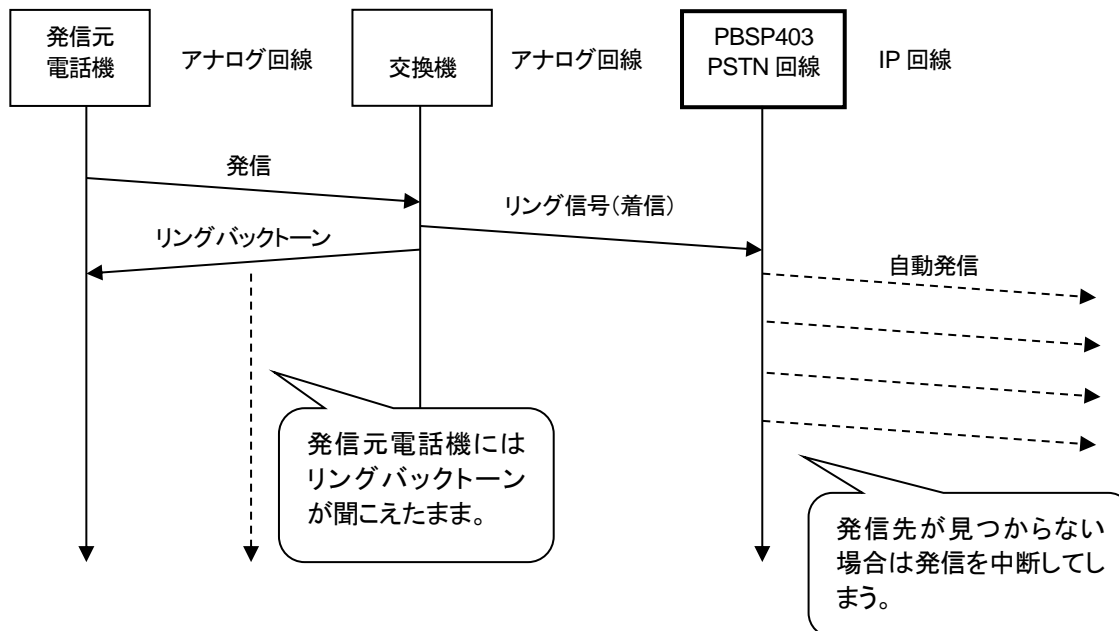
修理については弊社Webサイトをご参照ください。

<https://www.a-2.co.jp/top/repair.html>



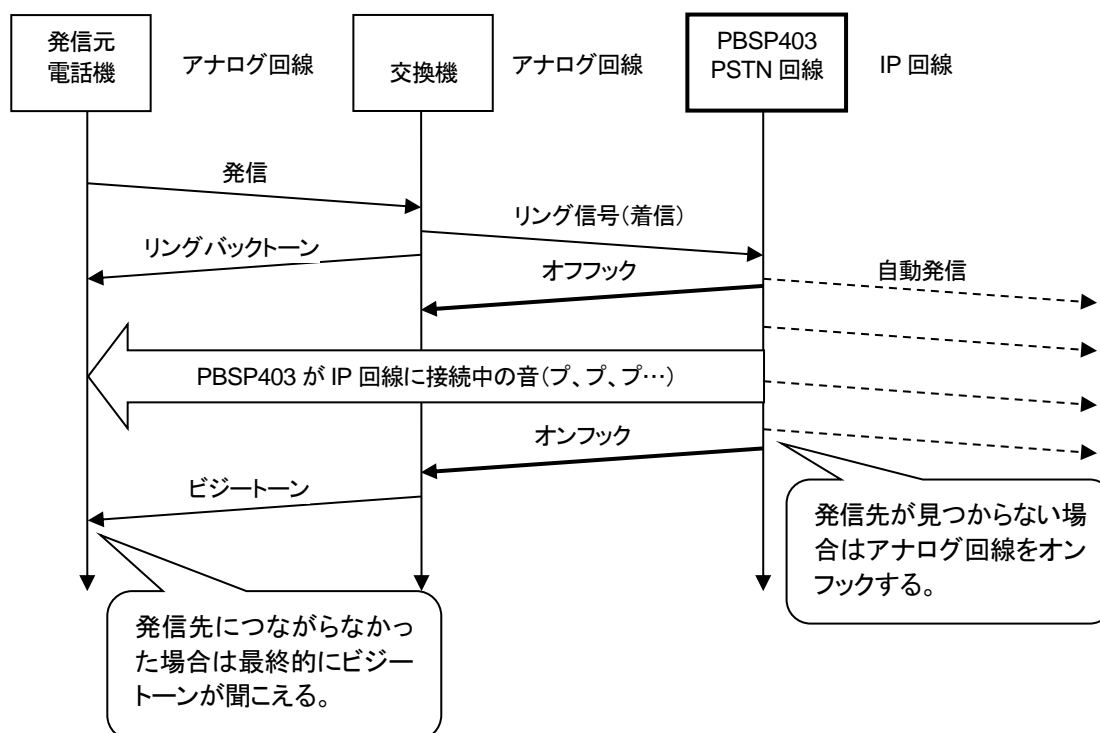
## 付録6 パラメータAD\_MODEに関する説明

本パラメータの値が0に設定されている場合、PSTN回線が着信を受けてIP回線に自動発信した際に、発信先が見つからない場合、PBSP403はその発信処理を中断してしまいますが、発信元電話機は呼び出し中のまま(受話器からはリングバックトーンが聞こえる)になります(下図参照)。



上記に対して、本パラメータの値が1に設定されている場合は、PSTN回線に着信があるとアナログ回線をオフフックし発信先が見つからない場合、アナログ回線をオンフックします。これによって発信元電話機は終話状態(ビジートーンが聞こえる)となるため、相手先が見つからないことを知ることができます(下図参照)。

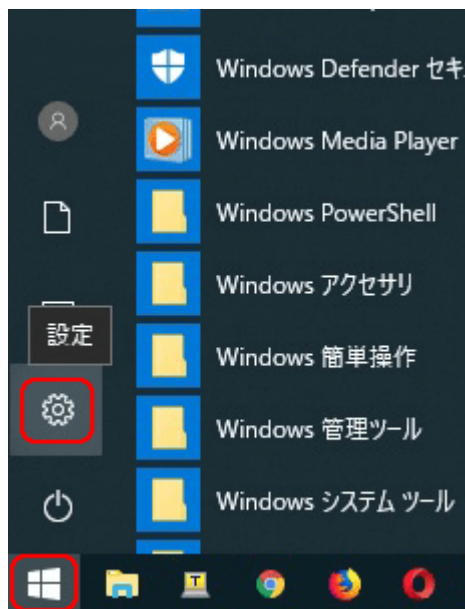
ただし、公衆回線においてこのモードを使用すると、PBSP403が自動で公衆回線をオフフックしてしまうため、発信先につながらない場合でも通話料金が発生してしまうことになります。



## 付録7 パソコンのネットワーク設定について

端末と接続しているパソコンのネットワーク設定を行います。  
設定方法はOSによって異なりますが、ここでは弊社で動作確認したWindows 10  
について記載します。

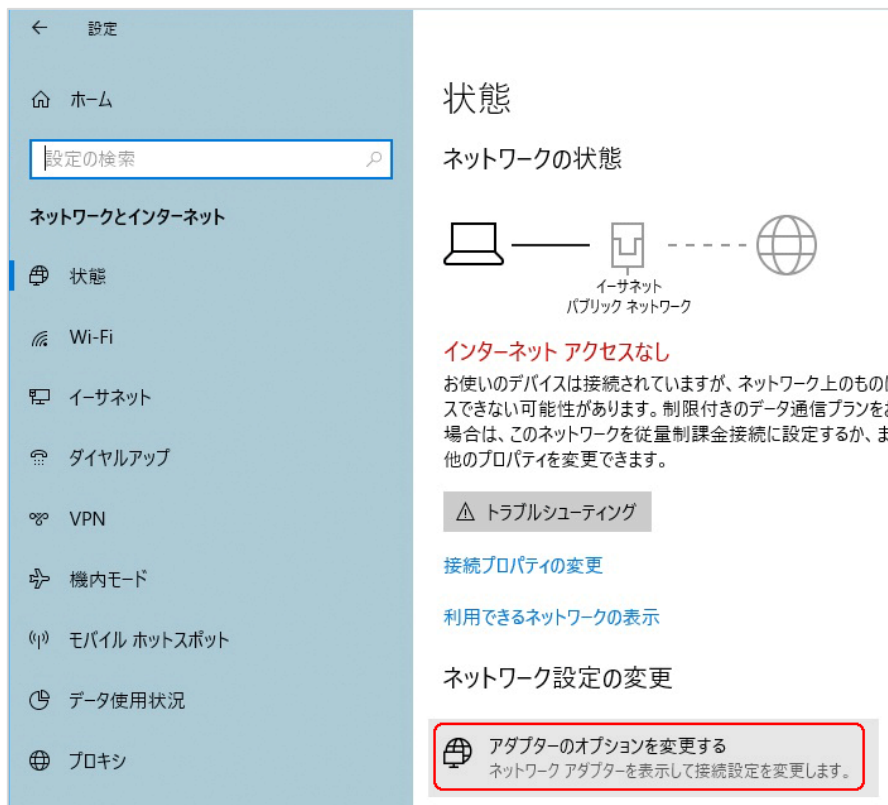
1. 「スタート(窓マーク)」→「設定(歯車マーク)」をクリックしてください。



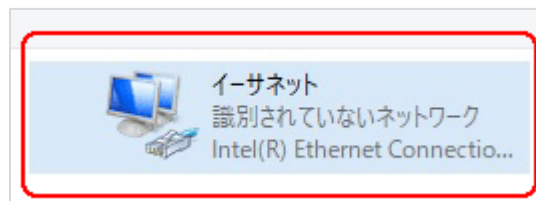
2. 「Windows の設定」が開くので、「ネットワークとインターネット」をクリックしてください。



3. 「ネットワークとインターネット」の「状態」が開くので、「アダプターのオプションを変更する」をクリックしてください。



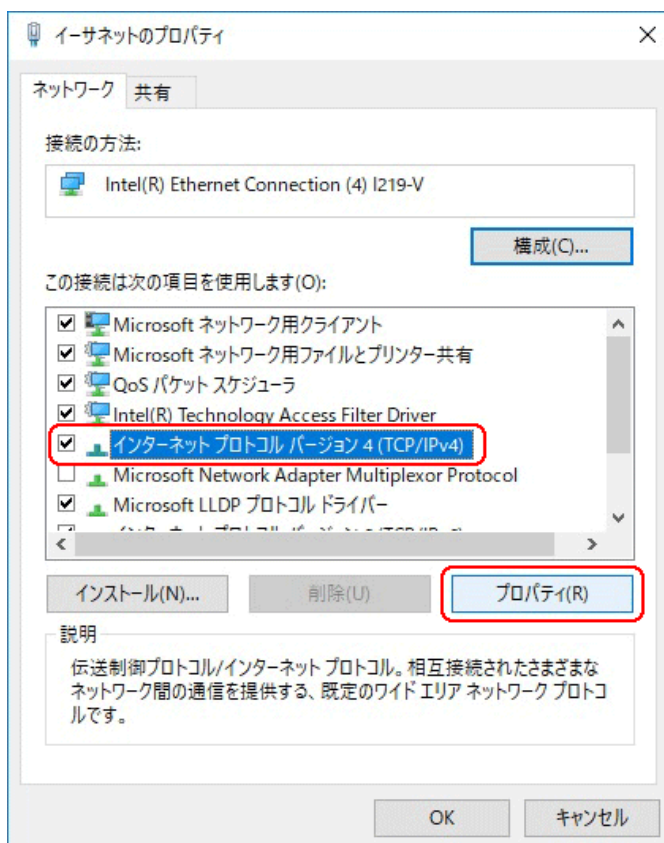
4. 「イーサネット」をダブルクリックしてください。



5. 「イーサネットの状態」ウィンドウが表示されるので、「プロパティ(P)」をクリックしてください。



6. 「イーサネットのプロパティ」ウィンドウが表示されるので、「インターネットプロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ(R)」をクリックします。





### 注意 現在のパソコンの設定を控えておいてください

端末の設定完了後は、パソコンを設定前に戻しますので、どのような設定状態だったかメモ等で控えておいてください。

7. 「インターネット プロトкол バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」ウィンドウが表示されるので、「次の IP アドレスを使う(S)」と「次の DNS サーバのアドレスを使う(E)」をクリックして以下の値を入力してください。  
デフォルトゲートウェイ、DNS サーバについての値は必要ありません。  
入力したら「OK」をクリックします。

IP アドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	設定なし
優先 DNS サーバ	設定なし
代替 DNS サーバ	設定なし

インターネット プロトкол バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 1 . 100

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

DNS サーバのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバ-(P): . . .

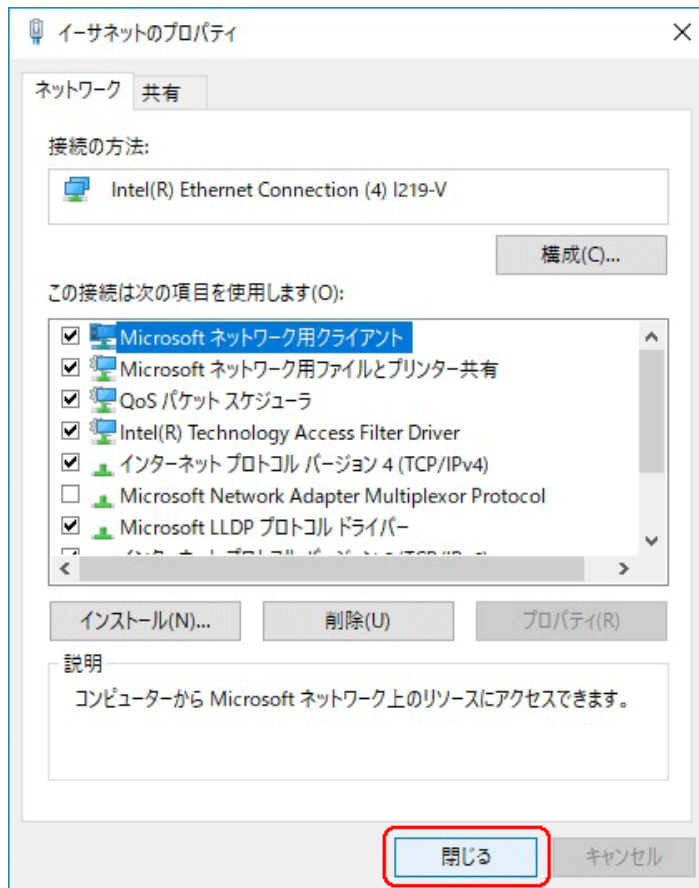
代替 DNS サーバ-(A): . . .

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

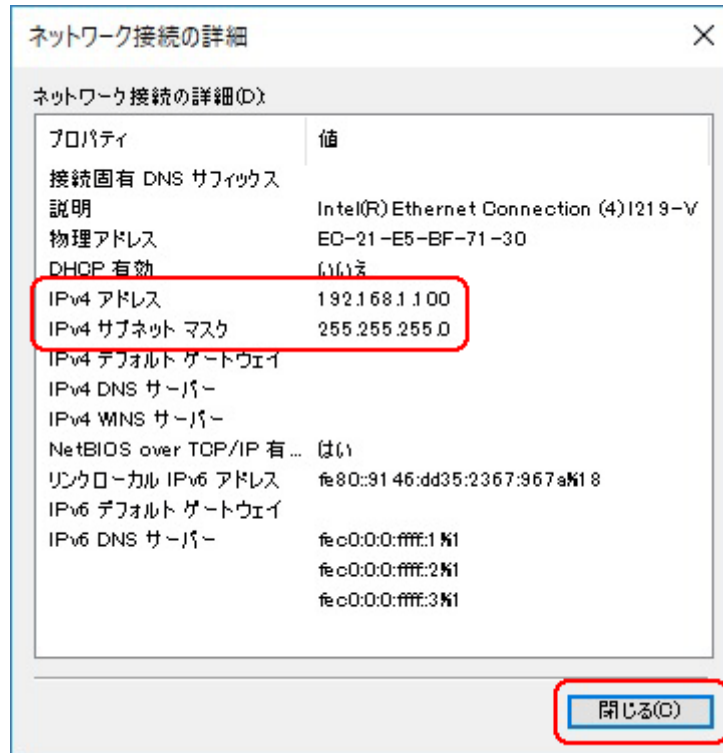
8. 「閉じる」を押して「イーサネットのプロパティ」を閉じます。



9. 【確認】「イーサネットの状態」ウィンドウの「詳細(E)」をクリックします。  
「イーサネットの状態」ウィンドウを閉じてしまっている場合は、再度「スタート」→「設定」…とアクセスしていただきます。



10. 「ネットワーク接続の状態」ウィンドウが開くので、IPv4 アドレスが「192.168.1.100」、IPv4 サブネットマスクが「255.255.255.0」になっていることを確認します。  
「閉じる」ボタンをクリックします。







# 保証書

この製品は、厳密な検査に合格したものです。  
お客様の正常な使用状態で万が一故障した場合のみ、保証規定に基づいて無償修理いたします。

- 使用時の注意事項につきましては取扱説明書をご覧ください。
- 故障と思われる現象が生じた場合、まず取扱説明書を参照し、設定や接続が正しく行われているかご確認ください。
- 保証期間内で修理する製品を送送する際、必ず保証書をそえてご依頼ください。本保証書は、製品名、お引渡し日および販売店名が記載されているレシートや納品書等で代用することができます。
- 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

## 保証規定

- 保証期間内に正常なる使用状態において、万が一故障した場合には無償で修理いたします。
- 修理は送付バック方式です。修理依頼時の送料、機器の取り付け取り外しを業者に依頼した場合の費用はお客様負担にてお願いします。尚、運送中の故障や事故に関して、株式会社エイツーはいかなる責任も負いかねます。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損害について、株式会社エイツーは一切責任を負わないものとします。
- お客様または第三者が被った下記のすべての損害について、株式会社エイツーおよび販売店は、一切その責任を負いませんので、予めご承知おきください。
  - 本製品の使用・使用誤りによって生じた、本製品に起因するあらゆる故障・誤動作、事故・人身・経済損害等
  - 本製品の使用中に停電等の外部要因によって生じた、事故・人身・経済損害等
- 本保証規定に基づく株式会社エイツーの責任は、製品についてお客様が実際に支払った金額を上限とします。
- 次のような場合には、保証期間内でも有償修理となります。
  1. 取扱い上の誤りによる故障および損傷
  2. お客様にて改造・修理をされている場合
  3. お買い上げ後の輸送、移動、落下、そのほかの衝撃による故障および損傷
  4. 間違えて接続した場合（電源電圧が違うアダプタを挿した場合等）の故障および損傷
  5. 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他の天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損傷
  6. 戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合による故障および損傷
  7. 日本国外で発生した損害
  8. お引渡し日および販売店名の記載がある保証書のご提示がない場合
  9. 株式会社エイツーもしくは販売店の都合以外の理由により、保証書に記載の字句を利用者もしくは第三者が改めた場合
- 本保証規定は、日本国内でお買い求めいただき、日本国内でご使用いただいている場合のみにて有効なものとします（This warranty is valid only in Japan.）
- 本内容については、お客様の権利を不利益に変更するものではありません。

製品名	LANdeVOICE PBSP403
保証期間	お引渡し日 年 月 日より1年間

販売店記入欄	販売店名	
	販売店住所	TEL ( )

株式会社エイツー  
〒142-0041  
東京都品川区戸越1-7-1 7F  
URL: <https://www.a-2.co.jp>

弊社製品の情報は以下の方法で入手できます。

### 株式会社エイツー

〒142-0041 東京都品川区戸越 1-7-1 7F

URL : <https://www.a-2.co.jp/landevoice/>

E-mail : [landevoice@a-2.co.jp](mailto:landevoice@a-2.co.jp)

TEL : 03-5498-7411(代)

受付時間 : 9:30～12:00 13:00～17:00 <土日、年末年始、祝日を除く>

### <お問い合わせ先>

ご購入頂いた販売店または、代理店へお問い合わせください。

#### ●保証について

- ・故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、接続や設定が正しく行われているかを確認してください。
- ・保証書に記載されている内容を、よくお読みください。正しい使用方法で利用した場合のみ、保証の対象となります。物理的な破損が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。

#### ●必要事項

- ・製品名 (Model)
- ・シリアル番号 (SN)
- ・お名前、フリガナ
- ・連絡先電話番号、FAX番号、メールアドレス
- ・購入店
- ・購入日付
- ・接続構成
- ・お問い合わせ内容 (症状や状況、使用されているネットワーク機器等を詳細に)